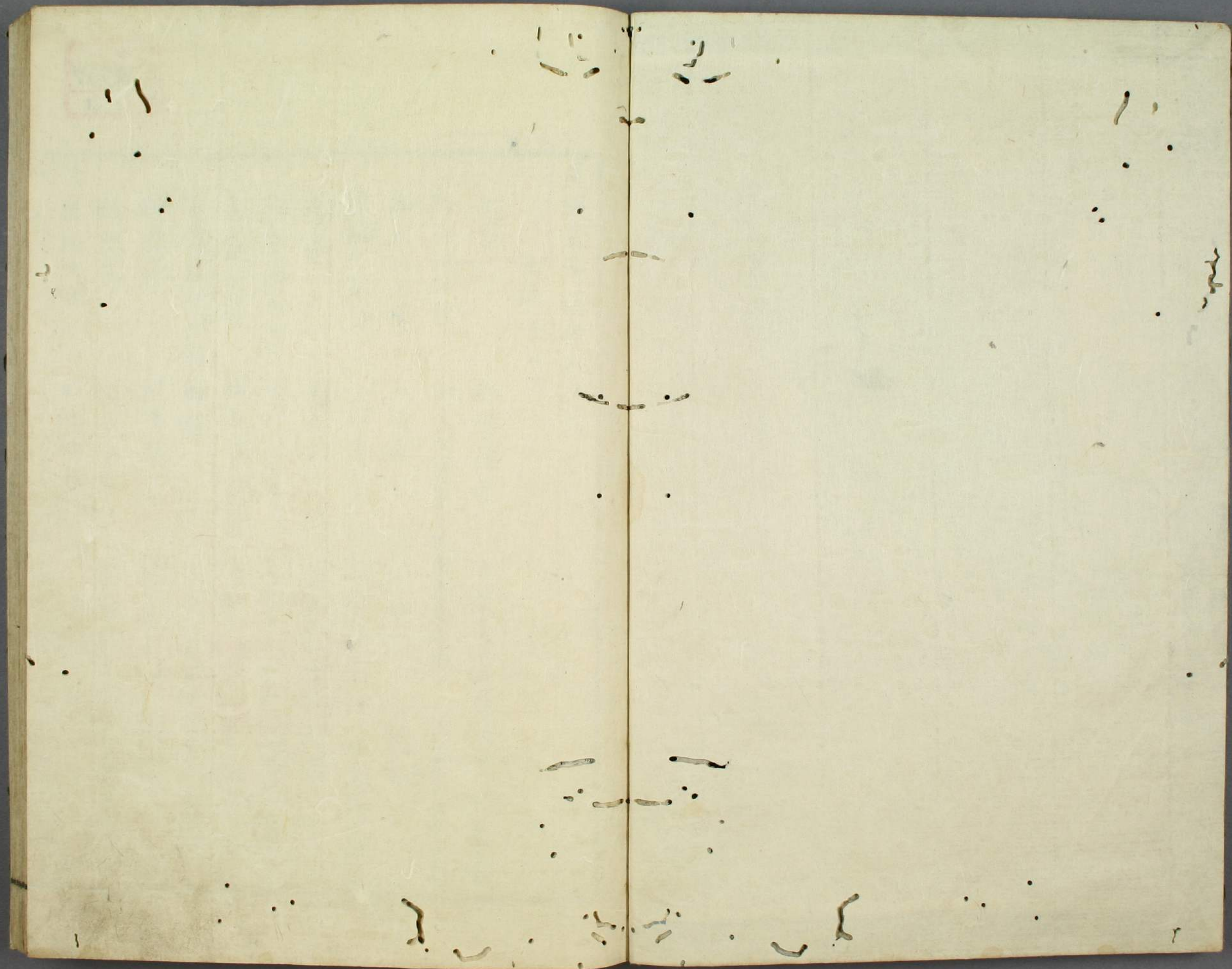


尾張名所圖會 前編

三

ル 4
4597
3





門 4
號 4597
卷 3

尾張名所圖會卷之三

目錄 愛智郡



- 熱田大神宮
- 師長公琵琶の祕曲奉納の圖
- 日本武尊宮箕媛命に別と吾々圖
- 信長公出陣の圖
- 御本社正殿
- 土用殿
- 神位
- 攝社
- 四疆の神門
- 八疆の鳥居
- 不實梅
- 一の鳥居の圖
- 蓬萊
- 雲見山
- 楊貴妃石塔の址
- 例祭
- 踏歌の神事の圖
- 御的射の圖
- 印地打の古圖
- 祈年祭の圖
- 舞樂の圖
- 端午馬の塔の圖
- 神寶
- 享祿の古圖
- 御神馬飾皆具の圖
- 神領
- 大官司及び社家歴代の畧傳
- 神宮寺
- 下馬橋
- 中森
- 泪川
- 秋月院
- 圓通寺
- 南新宮
- 大山車樂の圖
- 大福田社
- 日割御子社

早稲田 大学 図書館
昭 35. 1 28 覽
藏 書

熱田

愛智郡此より南此より西郷名ありて和名抄に厚田とあり余は古記にハ皆熱田の文字を用ひ寛平縁起に社と引り神鏡と遷りまんと衆議其社の地と定むに其地楓樹一株ありて自然に炎焼く水田の中に傷入る光耀

正一位勳一等熱田皇太神宮

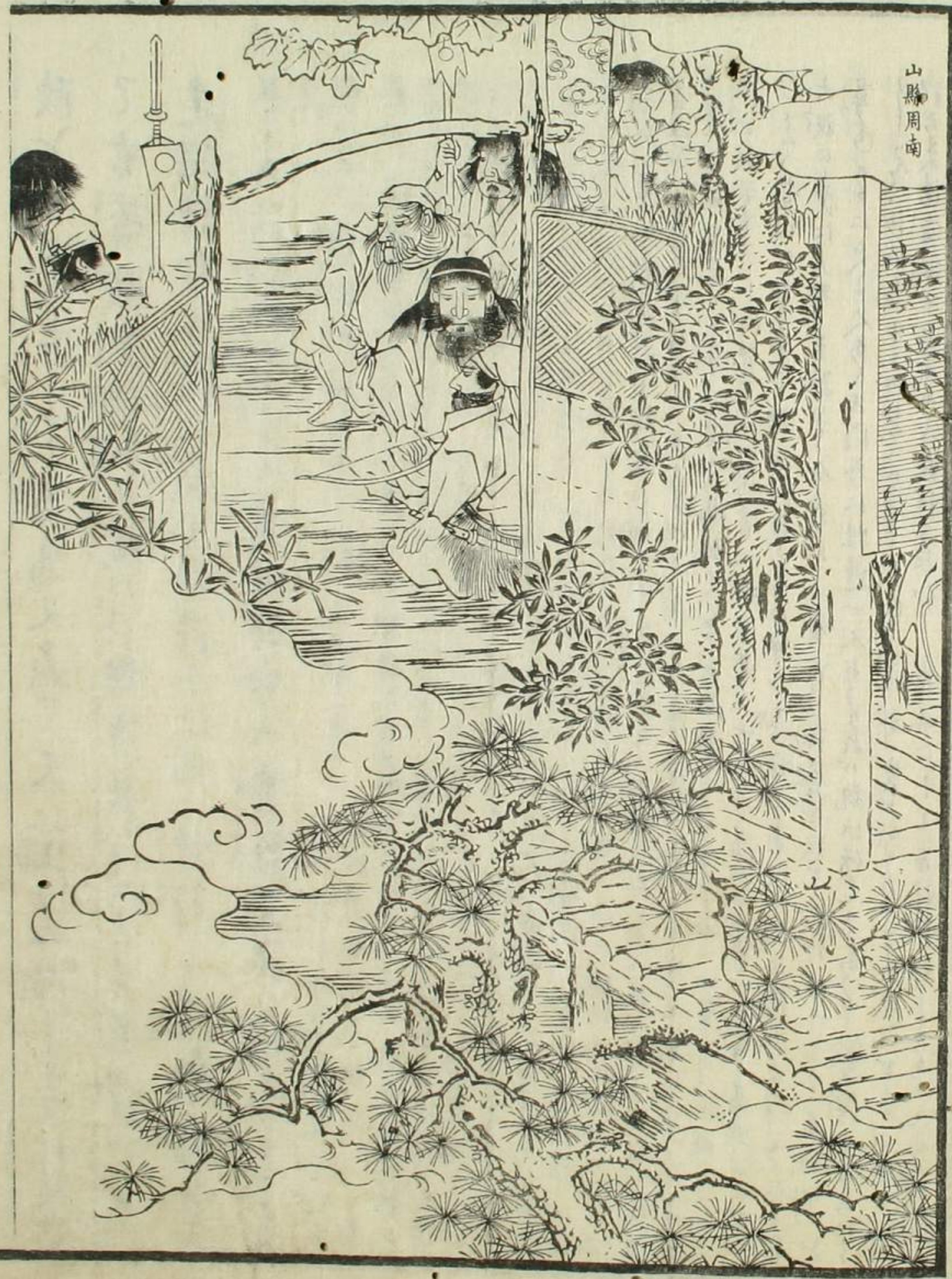
景行天皇四十年七月東夷皇命

皇子日本武尊

又の詩名日本童名あまきみ

身比長一丈力能く勇をたげまきいへるは是より先に熱田と付りて伊弉諾神に勅命とまされしをいへるを記しんて十月神首途りてまづ伊勢大神宮にまゐりて齋宮におりけり伊弉諾倭姫命より天叢雲の神劍と燧囊とを授り得り尾張に渡りて磐上今知多郡大村ありの里に建稲種命は伊弉諾宮兼媛命と龍幸し皆伊弉諾留りし後會と期し東行し後河國に到りて伊弉諾狩獵に事し野火と焼殺しまると謀りてすてに危ふるに彼神劍自然とわけて曠野の竹と蕪拂ひ又燧囊の口ひびき其火還りて賊徒と焼きこりて一尊ハ急難

と免れ給ひぬと云ふより天叢雲の名を改り草薙の神劍とぞ中よりかくて常陸陸奥等此夷賊征伐す信濃坂を越え事比宮兼媛命此家に淹留し給ひて別まに伊弉諾神劍と媛の許にまゐり我母系せば必汝が身と違へん此劍と我母のまゝとてのほいさく徒行よりあま近江の膳吹山此悪神を退治し給ひけに其神化して小蛇となり御道に横をり尊又んて過させ給ひて山神毒氣と在きけとぞ伊弉心乱きにりてまゐり伊勢に移り給ひ能褒野とて御病をくありまはせ武彦命とて天皇に事せりと奏して竟にかつらひぬ御年三十一天皇少くも哀れ給ひて浪り群卿百寮に仰せ伊勢國能褒野に納め奉らるるに白鳥とて大倭國とて飛り伊弉深原に留り其西にまゝと陵と作りしをらまされば又飛り河内の古市に留りて



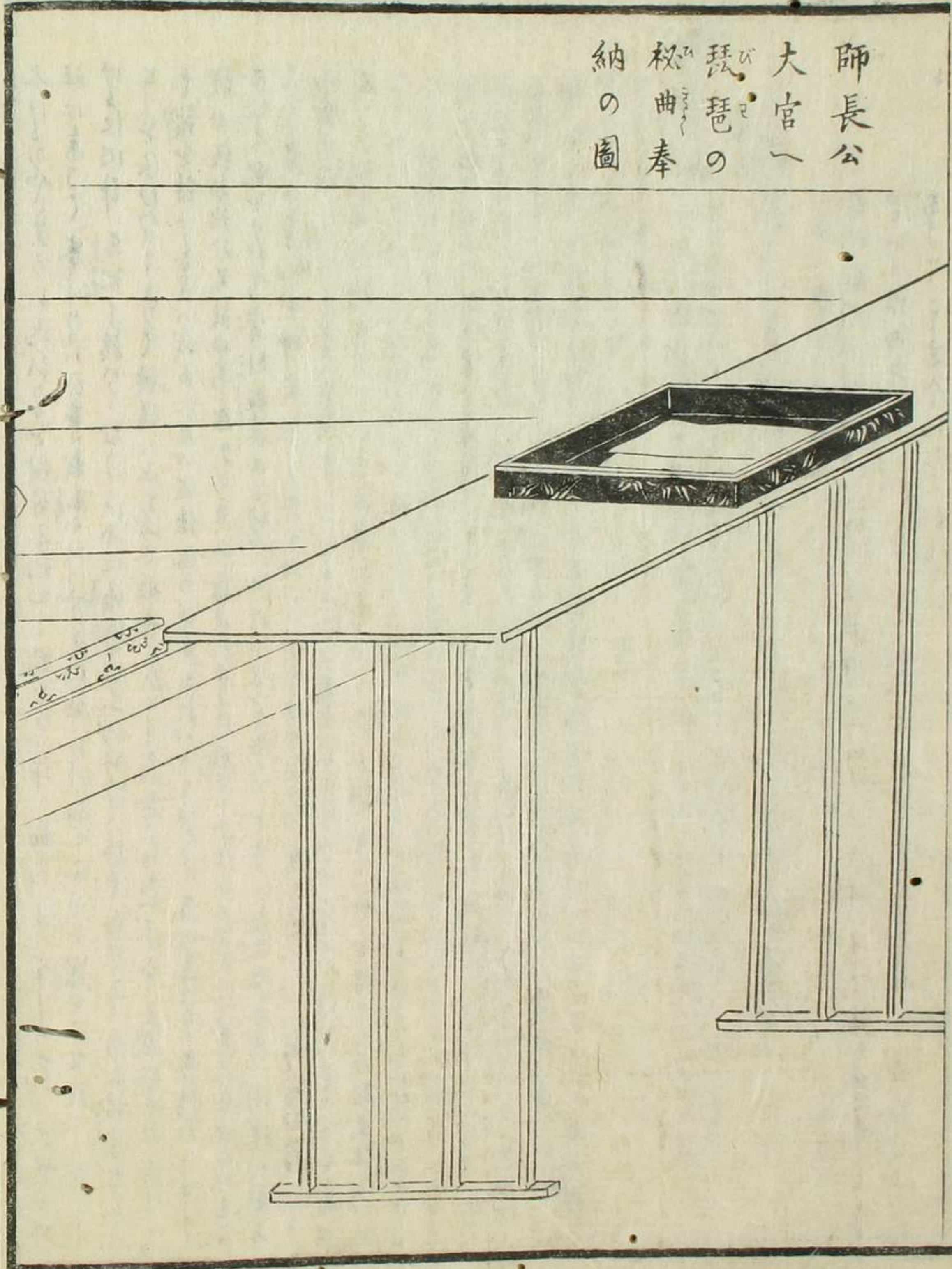
山縣周南



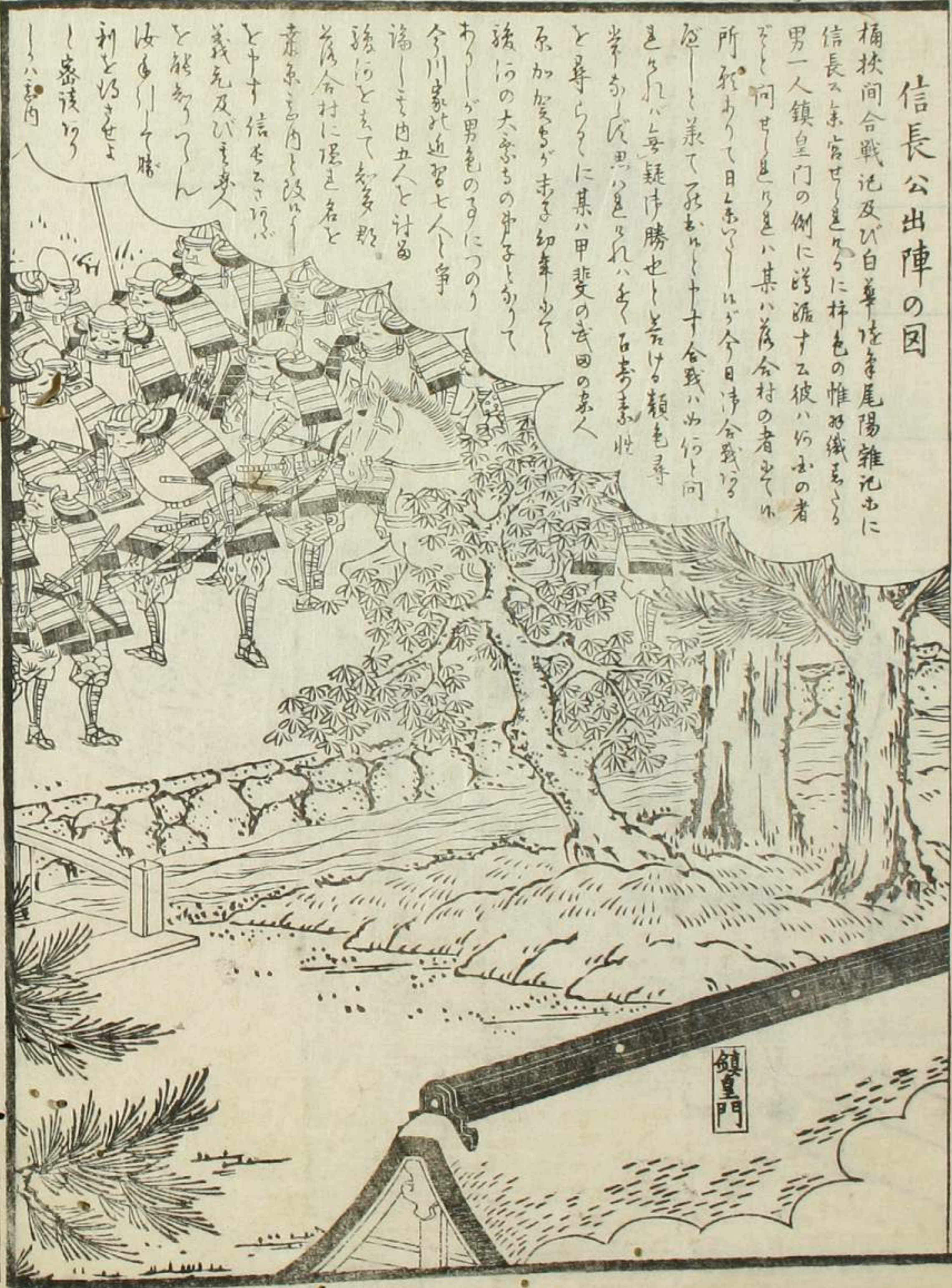
日本武尊官笈
媛命と一別の時
形見に寶劍
と授たまふ
圖

文集
東征東服
西伐西來
桓威武
四方維宜
帝子孝兮
是庸不疑
蝦夷奔駢
熊戎芟夷
丕顯厥烈
帝勳詭熙

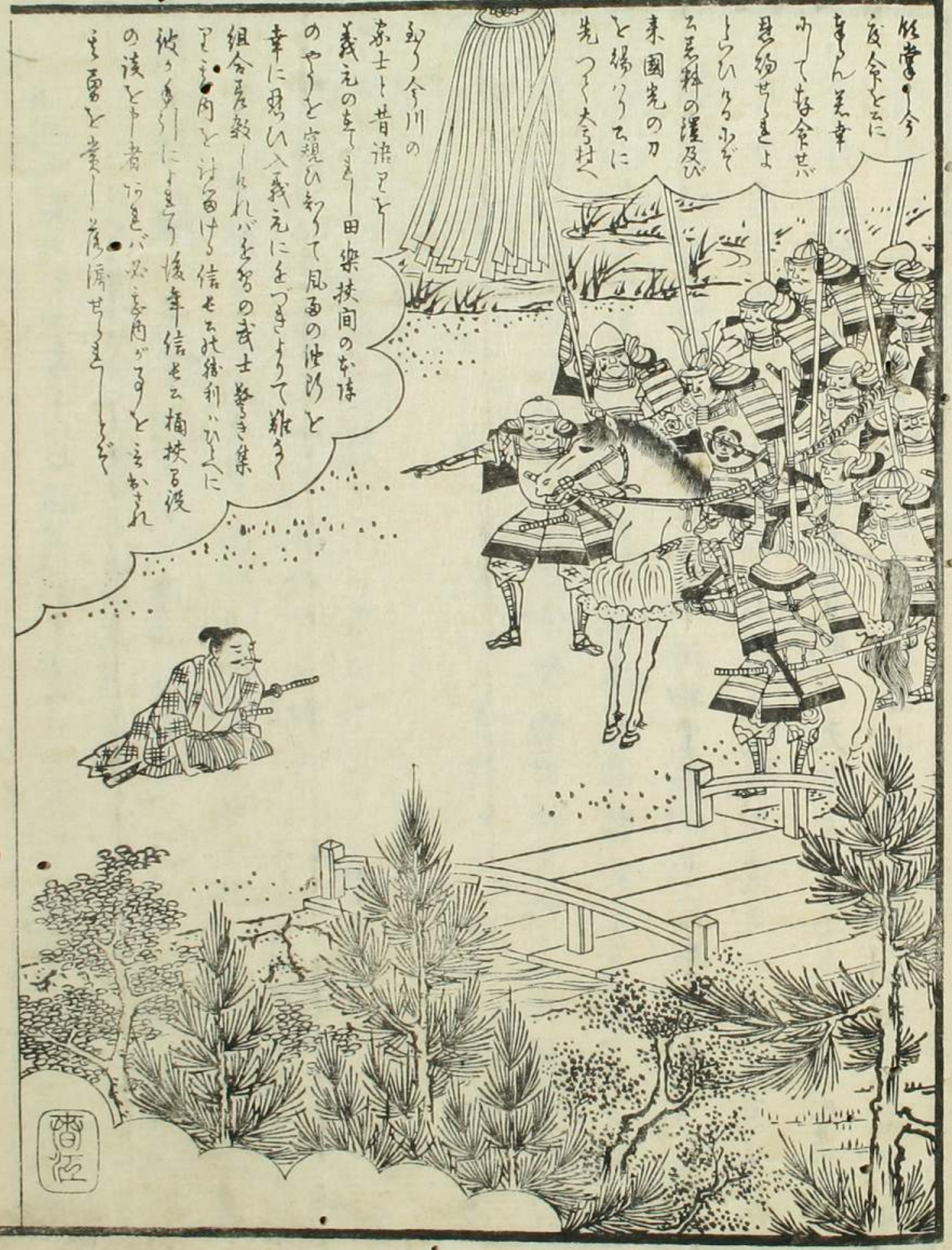
師長公
大官へ
琵琶の
秘曲奉
納の圖



信長公出陣の図



桶狭間合戦記及び白華陸軍尾陽雜記に
 信長公と吉成ととらに梓色の帷帳織り
 男一人鎮皇門の側に踞座す云彼ハ何れの者
 ぞと問せは是ハ某ハ某合戦の者也とい
 所をありて日とありて今日合戦は
 公と兼ておわいし十合戦ハ何れと問
 せは公ハ吾疑は勝せしと答ける類も尋
 常ありて思はれはるる公考まじ
 と尋らるるに某ハ甲斐の武田の衆人
 系加加もが赤子幼少也
 後河の大衆の衆子とありて
 ありしが男色の身につりの
 今川家此道智七人し争
 福しそ内五人とける
 後河とて多々那
 某合戦に隠名と
 赤原と内と改め
 とす信長と改め
 義元及び主事
 と能あつらん
 汝も川と勝
 利と成させよ
 し密謀り
 一ハ内



信長公今
 及今と云に
 幸ん美幸
 少て今合戦
 吾物せよ
 といひたるを
 公料の漢及び
 末國光の刀
 と揚りてに
 先つて大村
 御今川の
 赤土と昔法と
 義元のをとて田樂狭間の合戦
 のやとと成観ひ初りて風面の世勢と
 幸に好ひ入義元をとりて難く
 組合居敷いられざるを武士等も集
 ると内とける信と云はれ利ハいへに
 彼ら多しにすなり後幸信と云桶狭間後
 の法と云者何れ色ハ必し角と云と云かれ
 ともと云と云一ハ内

信長

鎮皇門

新抄遺集
若果、その高しむね恨とばかりきて、そは人よきまき

御本社正殿 延喜神名式に勢田神社名神大と記せり祭神五座

して中殿に 日本武尊西殿二間に 天照大神 素盞鳥尊東

殿二間に宮篁媛命建稻種命と記せり神名帳頭注に大宮ハ日本武尊東素盞鳥尊南宮篁媛命西伊弉諾尊北倉稻魂中央天照大神也とらハ正殿の各神とらハらて本

官及び勢田社此地方と之より混ずへし

土用殿 正殿の東に並ひて草 日本書紀の景行紀に 日本武尊所佩草

薙横乃今在尾張國年魚市郡勢田社と記し古語拾遺に草

薙神劍者尤是天璽自 日本武尊愷旋之年留在尾張國

勢田社外賊偷逃不能出境神物靈驗以此可觀然則奉幣之

日可同致敬而久代闕如不脩其禮所遺之一也と見えり

そ外賊偷逃しりハ日本書紀 天智天皇七年の卷に是歲沙

門道行盜草薙劍逃向新羅而中路風雨芒迷歸と見えり

書天武紀に朱鳥元年六月戊寅ト 天皇病祟草薙劍即日

送置于尾張國勢田社と記せり凡此神劍ハ日本三種の神器

の一なりて神代より 帝王此御許よりあり 崇神天皇此

御宇伊勢神宮に遷り給ひしと 景行天皇の御宇 日本

武尊に傳へ給ひしと 今より御宇に於ては宮に御法を以て承

皇國の守護とありて給へり ○渡殿 釣殿 祭文殿 迴廊 拜殿

勅使殿 拜殿の南にあり直會殿と号すむハ毎年二月祈年祭十月 神樂殿

海邊門の内には平日も巫女 神輿舎 法皇門の 寶藏 社西 舞臺 勅使殿

のるに礎ありて舞臺と 樂所二宇 舞臺の東 神廐 海邊門の外にあり 御饌殿 同

部屋 法皇門の内 神庫 春殿門の内 透垣 勅使殿の外にあり 御饌殿 同

仲哀天皇の 考廟 法皇門の内 古くより殿造り此廣大あり境地

之を函蓋せりて子年外の老樹蒼然天の霞ひ碧澄淨合

りてのは表小来去りて庭多ハ絶て薫けの汚穢と跡す

熱田大宮全圖

其一

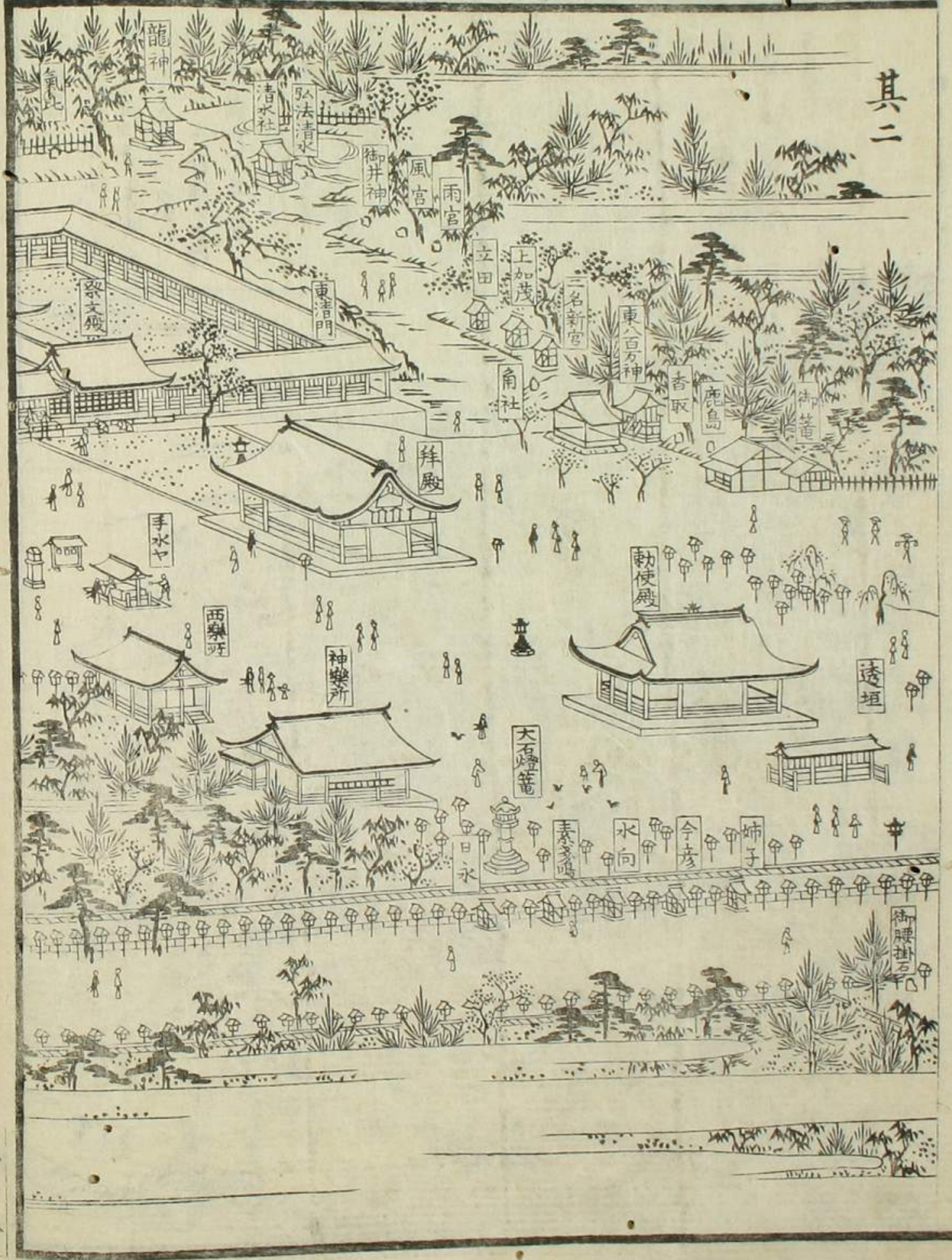
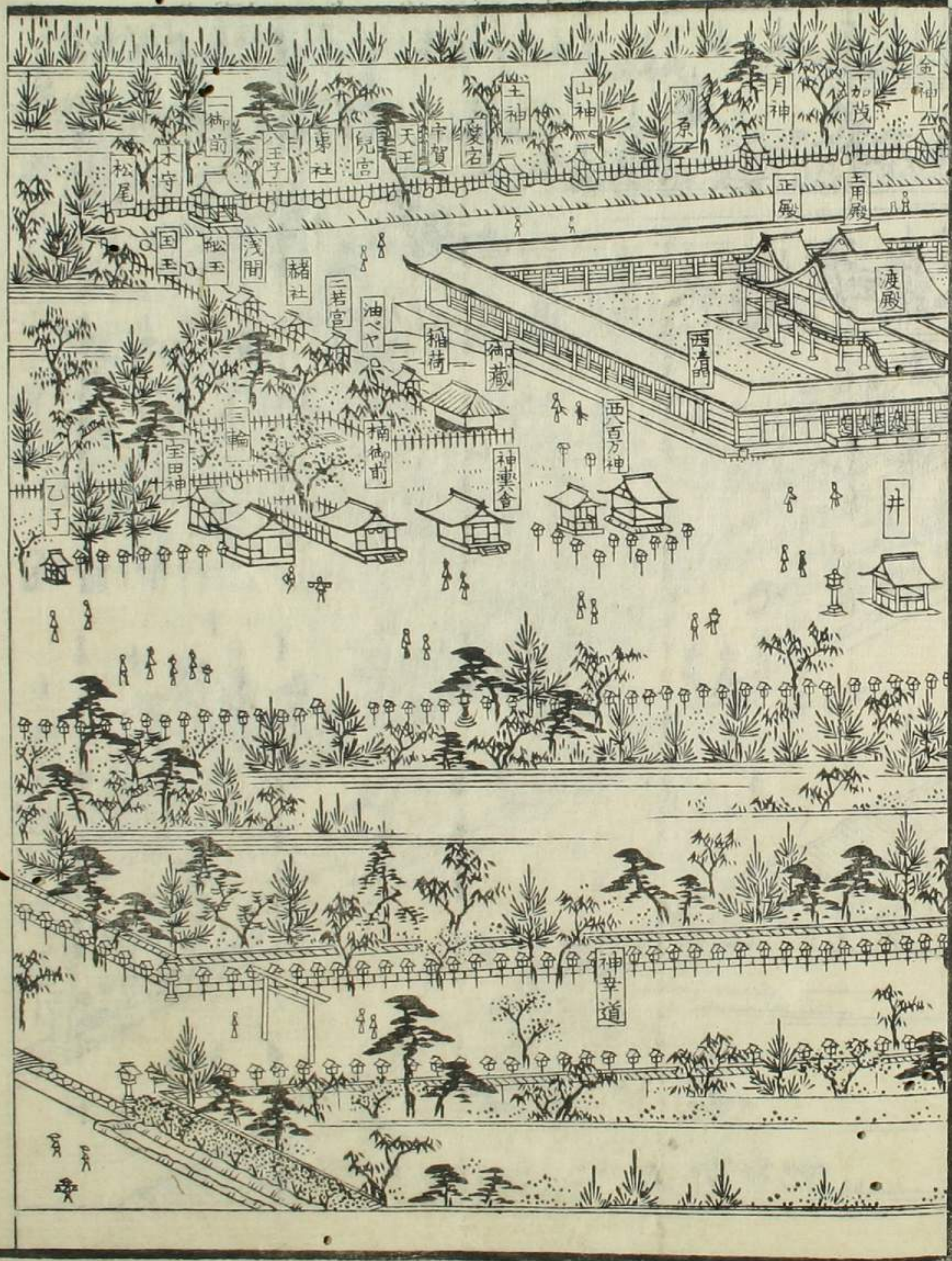
赤社の小祠中世廢後
 比の多一令と雖
 石とすんで今と雖
 所渭石神と稱するは
 ありとすべし因にハ
 廢社とすも悉く神
 名とす一とすの
 名とす一とすの
 則小祠の國あり
 して神名のり
 石神の標名
 ありべし

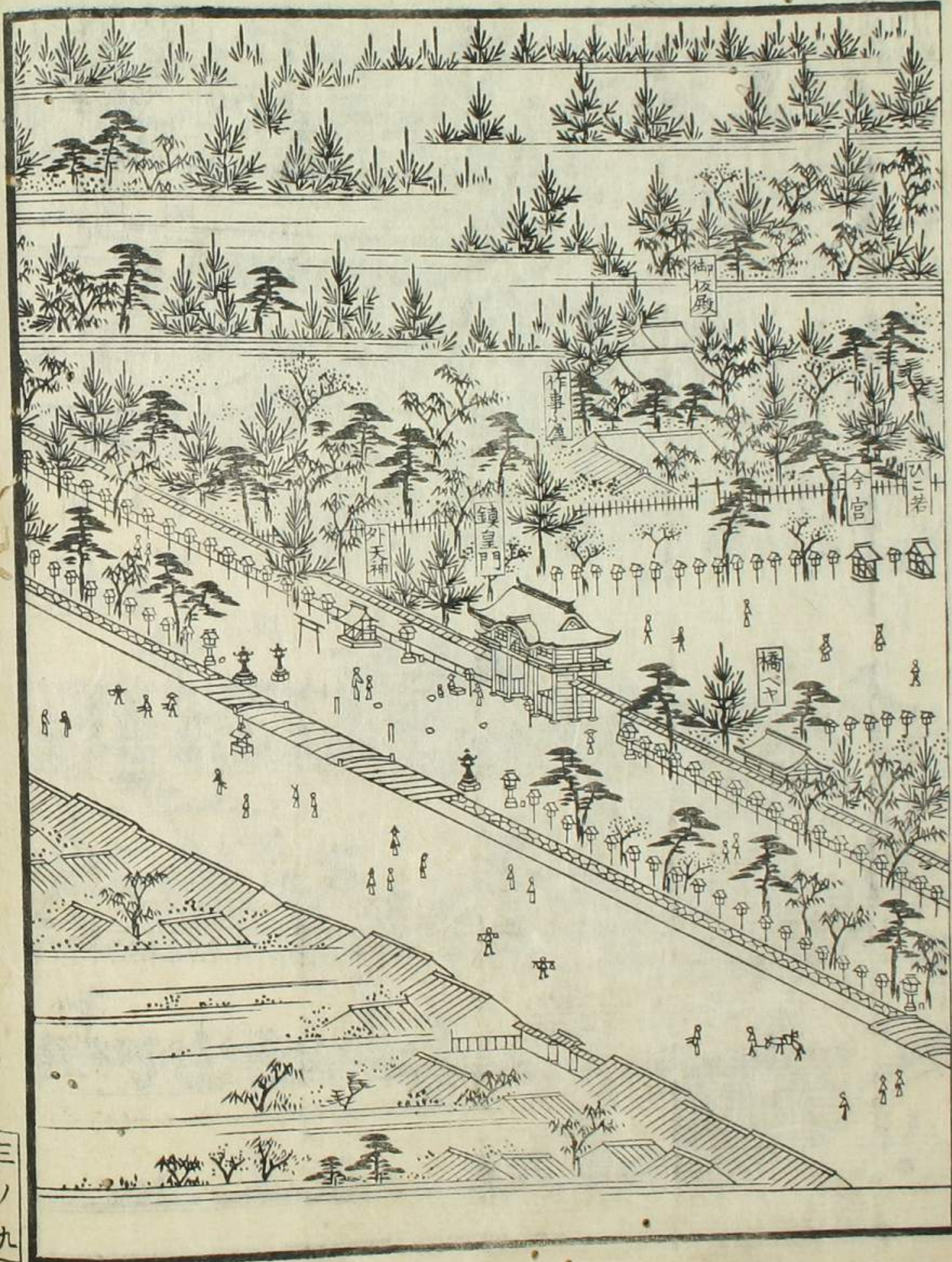
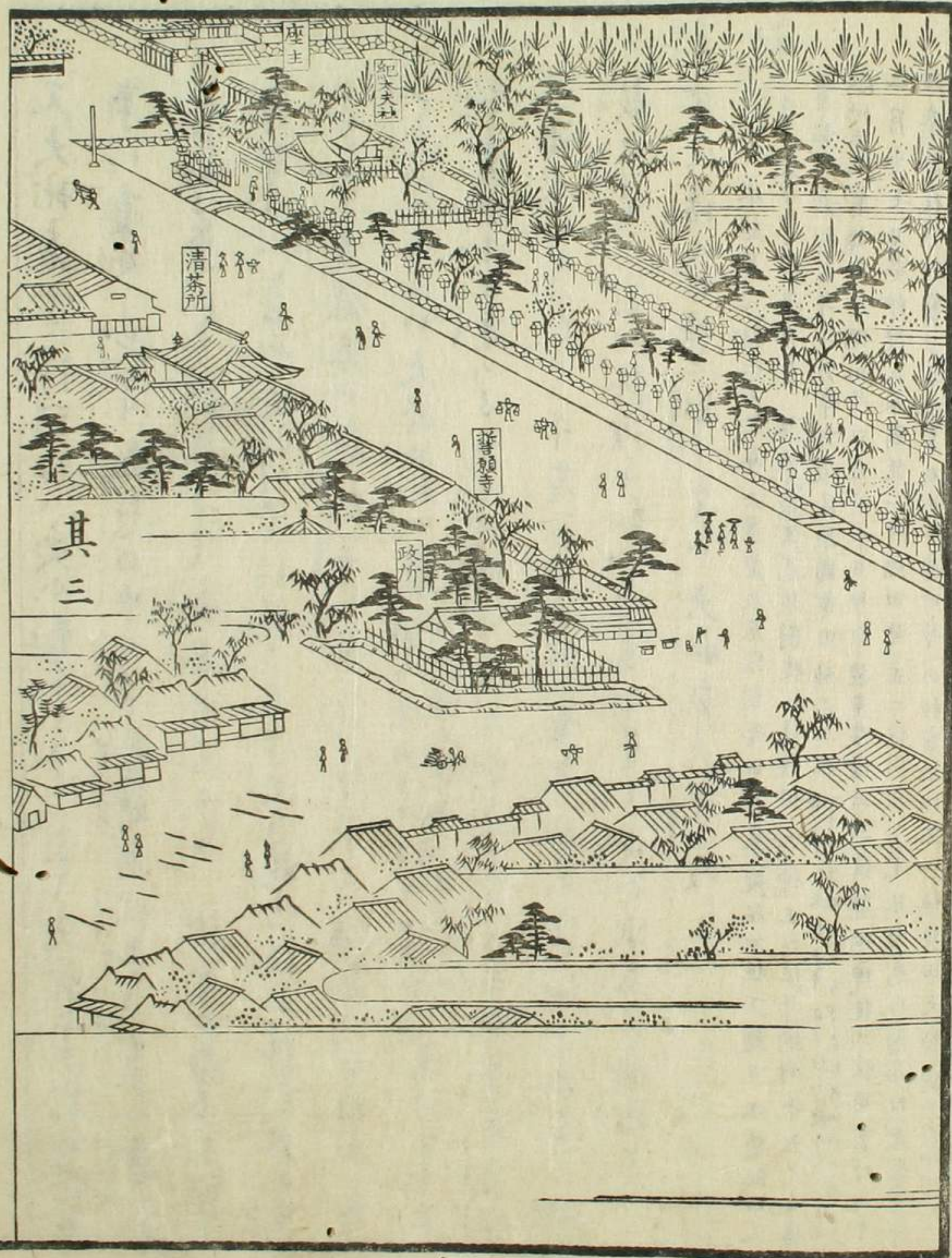


本國紀

當宮ハ日本武尊
 おとろりるまゝ赤夷也
 甲斐國沼打宮
 火の神
 日ハ十日と
 連分の
 甲斐國沼打宮
 火の神
 日ハ十日と
 連分の







又大北表より清門内ハ文小動りごとく又救十ノ後の時終
事に豪雨ととも執行の中斗を暫時雨止りてハ著く
人の御心かく清潔とて奇異ありと云 神威のあつと云
所なきはさやち作ぐに傳りあり又北境内及び清門外ハ古
より干有餘基の秋燈並びまろり中斗と海龍門の内小長
二丈四尺の石の大燈籠一基 洛に寛永七年庚午五月佐久
間大膳亮平勝之寄進なり あり是系
始南禪ちに建つたれ一対なり又近き文政十三庚寅年有信
の諸人かゝいへ干有餘基の燈並を一時小寺新し高古傾
散りて一因に修理とて善美と云一大小次第の位地ま
實に諸人の目を驚かす一夫壯觀なり

神位 日本紀畧曰弘仁十三年六月庚辰尾張國勢田神奉授後四位下續日本後紀曰天
長十年六月壬午 詔奉授尾張國勢田神三位熱田大神正三位并納封十五戸文徳
實録曰嘉祥三年十月辛丑授尾張國勢田神正三位按天長十年正三位に授けり
のり三代實録曰貞觀元年正月廿七日甲申授尾張國正三位勢田神後二位同書曰同
二月十七日癸卯授尾張國正二位熱田神正二位同月十九日向尾張國勢田大神等神
社奉神位記財寶日本紀畧及び正應四年の詔宣記に正一位勢田大神位に記せり

凡古記に云く神階かたまたま又貞治三年に書りて勢田座主如法院藏本の尾張國內神名帳
類從に正一位熱田大神宮と云ふ事尊崇の稱ハ永正六年八月の勢田溝式に日本大棟梁勢田大
神百王鎮護宗廟と稱す一足平家物語源平盛衰記等に當社と名圖勢田三の宮ありと云
も後田大縣より決りて之を是と彼二社の次にいへり古来の古よりいへり一足平家
五年に官せり安居院快藏神道集に或人云勢田大明神
我朝尾張國勢三宮惣閣浮提内勢三宮と云ふ事あり

攝社 一御前祠 勢田社の北に在り祭神大伴武日命ハ日本武尊東
社の北に在り祭神吉備武彦命ハ
一左王祠 勢田社の東に在り東國三十三ヶ國此
して大伴武日命と因りて副將也

右王祠 勢田社の西に在り西國三十三ヶ國此
帳に從三位御田天神と云ふ事
尾なり今室田社と稱す 楠御前祠 右王祠の西に在り伊弉諾伊弉冊尊
之を奉り今も勢田社と稱す 楠一株あり申名に厚く大和本紀に勢田神靈ハ楠
奉納して今も勢田社に由緒あり 樹木之俗に子安神と稱して此也 清水
祠 龍神祠のうらちに在り勢田國象女神傍に清泉涌りて
勢田社と俗に稱す 又弘法法師の清水と云ふ事あり

孫若御子祠 御田祠の西に在り祭神ハ後日本後紀に孫若
弟於五系天神と云ふ事あり 御子神ハ勢田大神御兒神也と云ふ事あり
日本武尊の弟七の皇子稚武彦王あり瓊々杵尊 應神天皇とも合せ系
たり延喜式に孫若御子社名神本國帳に從三位孫若御子天神と云ふ事あり 乙子祠 御
祠の西に在り祭神弟彥連ハ天火明命十四世

今宮 孫若御子祠の西に在り祭神藤原季
の孫本國帳に正二位乙子天神と云ふ事あり 勢田國目代之間辛年五十
八其子季範勢田大官司從四位下依聖夢之告外祖父闕一孫子孫謀與社官久壽二

年十二月二日卒年六十六と記す是之大宮司系圖

土神祠

一御前祠の東にあり伊勢大神宮儀式帳より

及び玉葉集にのす所も大むのことに因り

愛宕祠

右玉祠の北にあり

度會郡山田の土官祭神大年神土御祖神宇賀御魂神とりに授けしをの八埴山媛命と祭る

宇賀祠

浅間祠の北にあり

の北にあり祭 仁徳天皇 浅間祠

山祇祠

土神祠の東にあり

龍神社の西にあり山田郡金神社を勧誘せし社

玄田祠

伊本社の北にあり

今金山彦命を奉りし社

二名新宮

北にあり

玄田祠の北にあり安居院の神道集の投田大明神の系に大宮伊

賀茂祠

室殿の傍に賀茂大明神の社ありて或女御実の親にあいて

此後に出べきを致し社に祈念しけしと云ふ事あり

月宮

全神祠の北にあり

女が大宮司の妻にありしと云ふ事あり

三輪祠

籠守祠

あ 稻荷祠

宝蔵の北にあり

風祠

あ 稻荷祠

國靈祠

八王子祠

須原祠

以上十一社今廢すを余北二十四社と

合て三十五社と從て伊内内務社

りて是より未だ伊内

外天神祠

海邊門の外にあり

媛命貞治三年及び元龜二年の本國帳に從三位永江姉子名神

姉子祠

二祠あり祭神宮黃

と云ふ事あり彼大高村火上姉子神社と混すべし

今彦祠

因新東

初あり建稻種命と云ふ本國帳に

水向祠

因所東西に二祠あり

正三位今孫名神と云ふ事あり

山王祠

海邊門外

國帳に三位水向

日長神祠

因所東西に二祠あり

名神と云ふ事あり

天照御魂の慶會延佳が祝に上れバ列天火明命に

て尾張氏

の祖神と云ふ事あり

素盞烏祠

因所東西に二祠あり

西と白倉とかけて本國帳に正二位青倉名神と云ふ事あり

青倉祠

因所東西

已下と海邊門外東西十二社と標す白倉社ハ田中町小あり

山王祠

海邊門外

神廐の南

四疆の神門

海藏門

南の正面門と云ふ事あり

春敲門

長恨歌傳等に唐の方士が蓬

よハカゲ中央に築き置る漢燒筆ハ

鎮皇門

西門と云ふ事あり

三系小池宗近が作ししと云ふ事あり

清雪門

北門と云ふ事あり

方士が蓬に身をつくりしと云ふ事あり

築出鳥居

南にあり

に造り置る清正記に清正天皇を國の氏銀子二十貫目と馬場を名に後一西の門の破壊

八疆の鳥居

海邊門外あり

今に在る建主の門ありしと云ふ事あり

西鳥居

白鳥にあり

濱鳥居

南の海にあり

中鳥居

海邊門外あり

東鳥居

春

二鳥居

北の方幡後

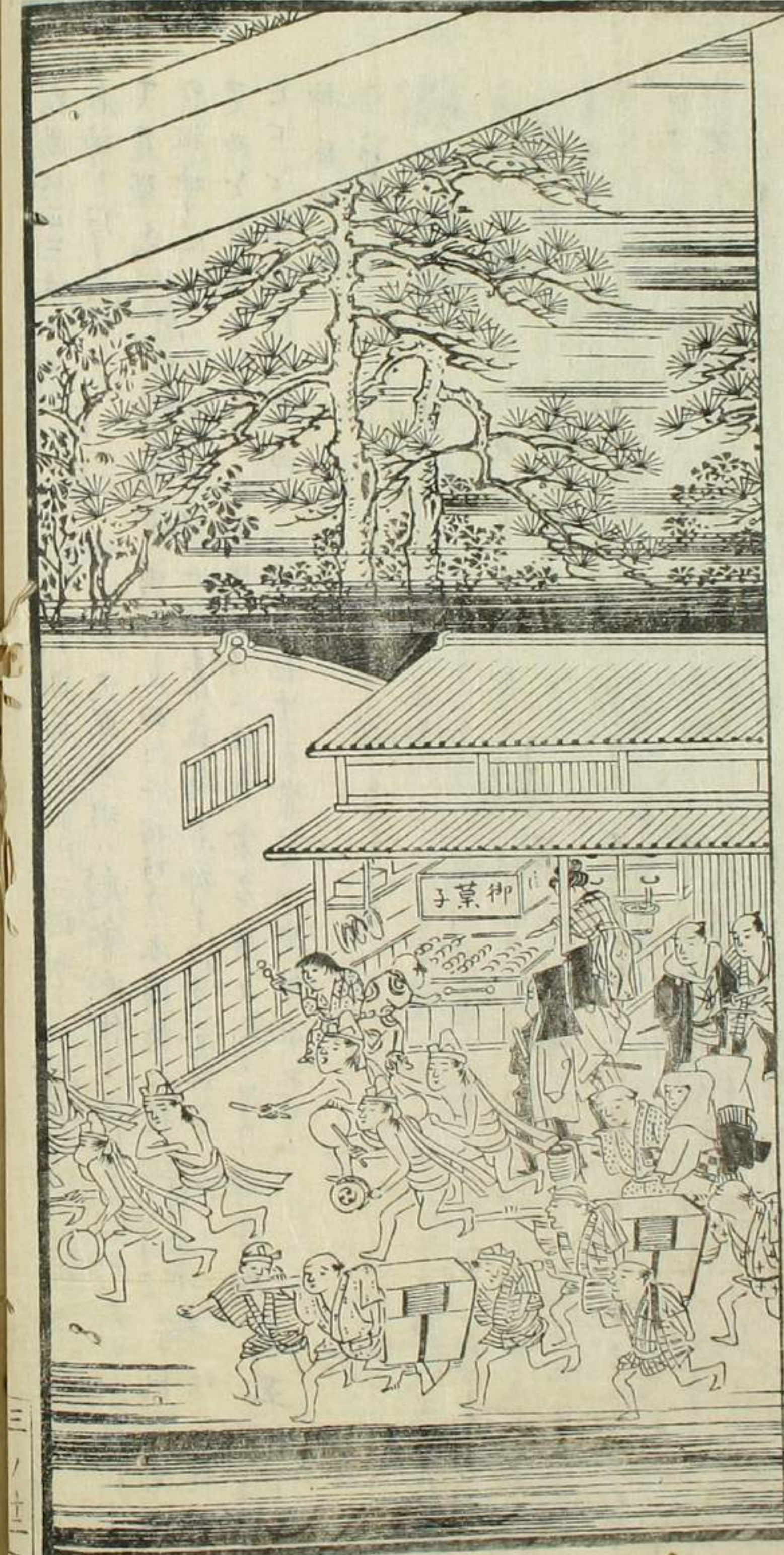
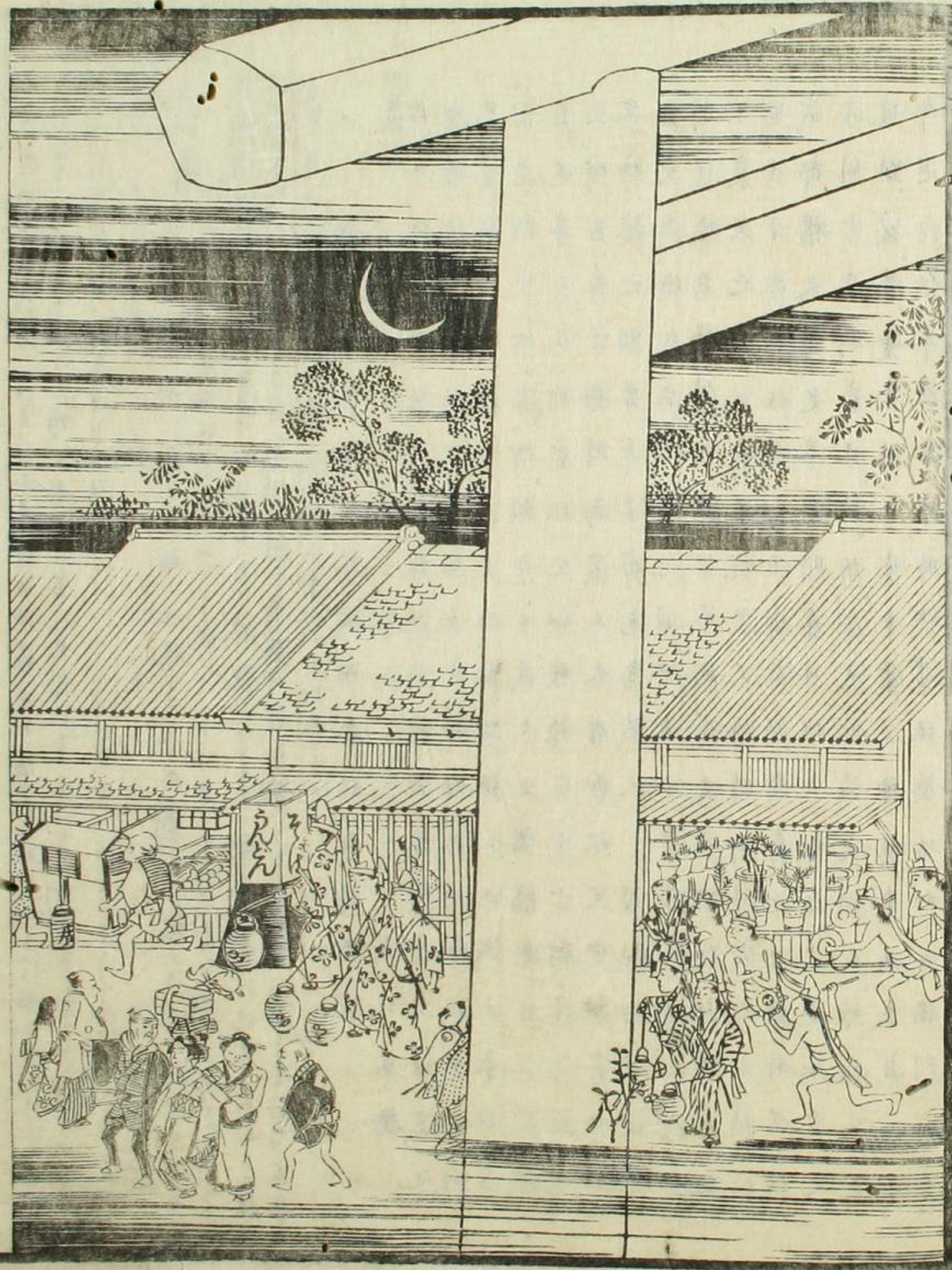
一鳥居

二鳥居の北尾頭町にあり

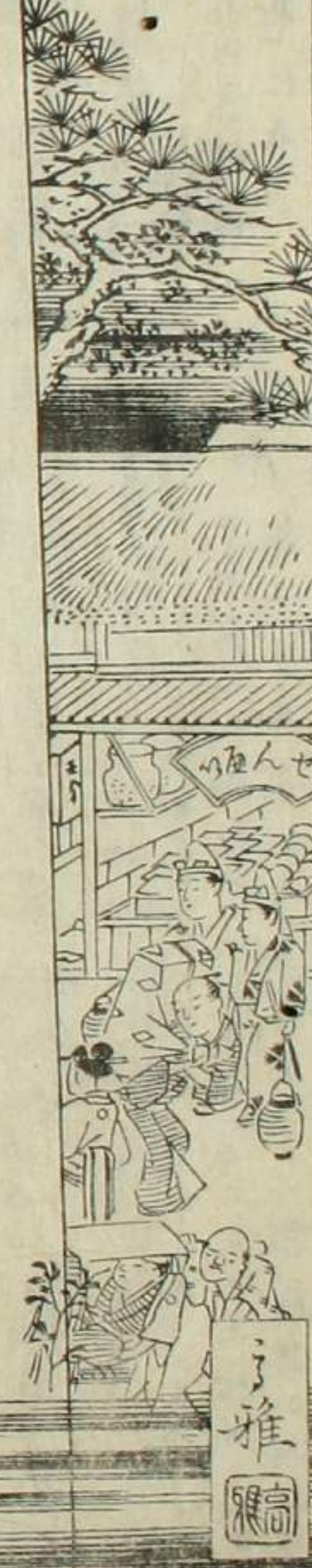
高サ三丈五尺柱圍一丈

檜造り丹塗あり

毎國の雜談集小相あり



一の鳥居
寒中大宮
夜参の図



子葉御
雅

きり者の妻物狂ありけは山寺傍の陀羅尼を漏して加持すに物をはわしけり
うてありが呪咀し人形又換田の宮れ鳥居に去りたる釘をききわしけり云
けり云々

不實梅

内天神祠の例にあり古樹枯槁して今のハ藤あり俗には木の梅実を足さ
梅此梅榎の也之を蓬草と見あまは祥瑞ありし厚覽草に記せり今も手結の
法人きりく一藝の蓬州と稱す附ハ祈禱の感念著しう開運なりとて心と面り
索すぞいふありぬ行蓬菜が時の来由ハ下にあり

熱田官祈請男奉周明春侍中所望状

朝野群載
右匡衡賜鶴版於顏巷促熊軾於尾州昔泥雪窓之
幽明今仰焚田之冥助去年神拜之次依代奉臨時
已奉臨時祭近日京上以前致懇之誠又奉臨時
祭是則中心有所願秀才藏人守千古朝臣為侍
自延喜則有祖父伊豫權守千古朝臣為侍
為侍讀秀才為藏人守千古朝臣為侍
左大弁齊先為侍讀秀才為藏人守千古朝臣為侍
時匡衡為侍讀秀才為藏人守千古朝臣為侍
不衰天之福江家不悅乎又維時卿辭式部運時還任
男秀才齊先任式部丞齊光預榮爵之日維時還任
式部權大輔春周明春可任式部丞齊光預榮爵之日維時還任
子同官忌明春可任式部丞齊光預榮爵之日維時還任
風跡欲奉愛子於天官幸蒙匡衡始祖左衛門督音
年之內令奉周明春時祭蒙匡衡始祖左衛門督音

人卿在昔淪落常州勤奉神官今匡衡不慮為刺史
亦奉周相從到此匡衡自讚祭文俯地恐於拜白
有長保於四年十二月九日匡衡自讚祭文俯地恐於拜白

本朝文粹
國率正四下行式部權太輔兼東宮學士大
江朝臣匡衡誓首禮足白佛法僧言當國守代為
鎮守其熱田官奉書大般若經一部六百卷已為恒
之能事任秩當國之事莫先於大般若會匡衡幸出
能事任秩當國之事莫先於大般若會匡衡幸出
巷之雪密謬莊尾州之風俗若不奉侍讀於我后何
必質朴之愚者得書大般若經若不奉侍讀於我后何
必質朴之愚者得書大般若經若不奉侍讀於我后何

信長記
馬海也夫以當敬白祈願事
鄉天書從兩嚴雖必必巷能之鎮江國本朝文粹
寬之衆之日三熱衰開質之能事守朝率
弘期地所本聲田於素朴之任其熱田官奉書大般若經若不奉侍讀於我后何
今祇生功保幣靈社流布般若之教文請僧各十口伎樂
不幾界四恩嚴三寶大元器道具各十口伎樂
神四恩嚴三寶大元器道具各十口伎樂
明恩嚴三寶大元器道具各十口伎樂
願嚴三寶大元器道具各十口伎樂
賜嚴三寶大元器道具各十口伎樂
靈嚴三寶大元器道具各十口伎樂
已嚴三寶大元器道具各十口伎樂
匡嚴三寶大元器道具各十口伎樂
衡嚴三寶大元器道具各十口伎樂
始嚴三寶大元器道具各十口伎樂
祖嚴三寶大元器道具各十口伎樂
左嚴三寶大元器道具各十口伎樂
衛嚴三寶大元器道具各十口伎樂
門嚴三寶大元器道具各十口伎樂
督嚴三寶大元器道具各十口伎樂
音嚴三寶大元器道具各十口伎樂

叔世之極亂再欲興帝都衰微治國之擾亂致君
於堯舜之民於葦炭之外素懷非他矣于茲源義
社燒散民屋任我意而無奈之慮不用武命却神
却月盛也日茂也葛藟相連無於強乎彼多勢及
萬有餘柯無勢僅三千不非類當社神力爭得勝之
當車輟同蚊子咬缺牛敢非類當社神力爭得勝之
平傳聞連日武之擊之東夷於蒲原也嘉北如
合符契連日武之擊之東夷於蒲原也嘉北如
兩石隨一宜施靈驗八徒於目擊之間必笑仰冀水
顧伏捧一矢鎬以準西林之鏡及斬衆賊之首立滿
此拳義兵全非私用願私欲而為起王道之衰救民
之危也錄三年五月十日九日平信長謹白
惺寤文集 雲隨望照金剛大帥之真跡也
去海巖門前雙波 鎖仙娥 破唐朝早歸
丙辰紀行 功就凱旋時宿所曾徵官箐姬誰道馬嵬坡下
東征 朝來此立靈祠 林春齋
癸未紀行 逆旅 契田官 喜年桑域將軍建勳業李唐天子覓
神國威嚴永作邦家鎮八劍霜寒東海山崎閣齊

再游地行 我國 治平自進 武尊再起 成功八岐 蛇斷
四夷 謠萬世 秋清神劍 凡武尊再起 成功八岐 蛇斷
江東吟稿 蓬萊 舊社 幾春秋 草薶靈光 射斗牛 若索長生方上
藥須 送官子 雲還 張海 東中 藏服部南郭 帝子新
文集 君看 千載 古神宮 巍然 獨存 張海 東中 藏服部南郭 帝子新
蛇劍 威靈 赫至 今雄 獨存 張海 東中 藏服部南郭 帝子新
玉壺詩稿 晚凡 吹短 獨往 何處 隱行 舟泊 得新 醪去 市新 霜橘 抽秋
弊帚集 雲冷 跨三 鳥露 樓俯 十洲 偶因 問神 迹聊 復想 仙游
艾荷園文集 近指 蓬萊 張陽 題深 琪樹 秋題 詩苦 多景 迹倚 杖思 仙游
虹霓 徐福 祠前 綠草 齊珠 樹花 香末 翡翠 琅函 劍氣 貫
長崎紀行 虹霓 徐福 祠前 綠草 齊珠 樹花 香末 翡翠 琅函 劍氣 貫
當道 夷狄 胡馬 渡關 門功 高倭 武尊 清廟 巍然 東
五雲 搖曳 田胡 馬渡 關門 功高 倭武 尊清 廟巍 然東
草應 知此 地是 蓬萊 限徐 福當 年泛 海來 况復 官中 多葉
南溟 繞繞 古蓬 瀛雲 擁祠 壇五色 明德 千年 儼如

神々の志を此に結ぶるよりこそ世を治むる神の御社 冷泉為則に

まろいあけ初めとあり侍りて 煖田の宮に 煖田の神の御社 彦根流定に

ひむく此玉をいさむるよりこそ世を治むる神の御社 本居宣長

核衣まきつ作くと路を是てめりて煖田の神の御社 冬瀬屋系次

作くよりこそ煖田の神の御社 此道せりてあん 外山寧相

神のまきつ煖田の宮にさきつはかるといふ 稲掛天平

とまらぬのまきつはかるといふ 煖田の神の御社 鈴本朗

甲子紀行 煖田に侍りて 社に大に破色染物いたるをいふ 多岐ふかるといふ 繩をとりて社乃

路とありて石をいへてと神とありてのまきつはかるといふにしるす中

あふさかかきて候ふやうに 芭蕉

隨縁紀行 煖田に侍りて 芭蕉公 甲子の紀行に 中畧目初段よりいふ 候てとありて

廢時より甲戌の今ハ遺管行つたに又ありて 晋子

かよくといふ海魚の鮮や核の月 龜箱

多れさや煖田よいつむる核の月 岩翁

煖田の宮に侍りて 煖田に侍りて 毎延

調へ首尾陽を川や官に 専吟

内天神社の地と蓬が鳴りて宗祇の秘中抄に蓬が鳴りて近江の竹生侍尾

張のうらと宛紫のちり侍りてとよきりぬ 蓬が鳴りてとありて

本朝神社考に本朝指為蓬菜者三富士熊野煖田是也とありて又東海瓊

華集に秦の徐福が海に入る三神山に不死の菜とありて海魚とありて

らざりてはあつてありて 煖田の宮に侍りて

光りてんをたにやん人々名をまきつて海の菜とありて

神のまきつをいさむるよりこそ世を治むる神の御社 贈大納言

空永三年 園未下向の地 雅世に

とよに神代孫ぬとありてとよに侍りてとありて 前關白

んる人のいふ菜とありてやせんよきりぬ 岩山通隆

光りてんをたにやん人々名をまきつて海の菜とありて 堯孝法下

雲見山 大宮の... 堯孝法下

雲見山 大宮の... 堯孝法下

雲見山 大宮の... 堯孝法下

雲見山 大宮の... 堯孝法下

雲見山 大宮の... 堯孝法下

楊貴妃の古事

日東曲

明人 宋景濂

玉環妖血汚

寰中豈有靈

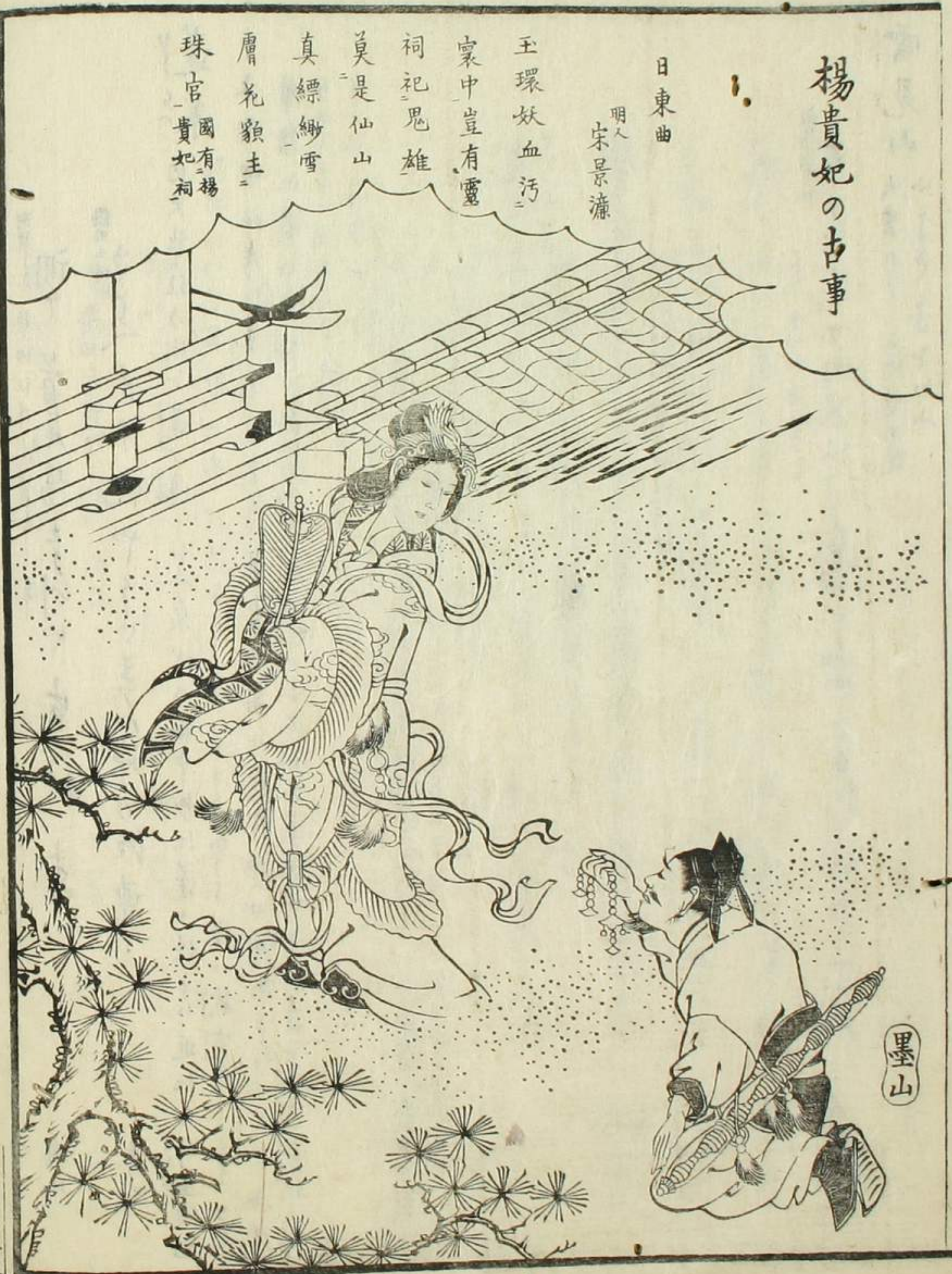
祠祀鬼雄

莫是仙山

真縹緲雪

層花艷主

珠官 國有楊貴妃祠



神さひくしや新きき松杉よきを見る山はいくは絶せん

刑部少輔 平雅連

楊貴妃石塔の址

清水社の色にありて貞享三年伊宮清隆の所廢絶して今其旧址の跡より唐の玄宗帝我日本と傳るの事なりけり。貴妃馬嵬に楊貴妃と生色彼に之を心と收るる事ありて之を五百年來の古事と云ふに去りて今も其修儀之古板の長恨歌抄に彼方士が蓬萊山にて貴妃に召らるる時日本大小神祇評議給以誓田神請給生代楊家而為楊妃乱玄宗之心醒日本集取之志給誠貴妃如失馬嵬坡乘舟着尾及智多郡宇津美浦歸誓田官給云々。曉風集に尾張之誓田大明神則楊貴妃也畧在仙傳拾遺云々。又本朝神社考に云々。天淵記の説小同。又楊貴妃の珠簾畧云に云々。龜山帝の勅によりて洛倉此稱名寺に納りて。四國雜記及び新編法金志に云々。

翰林風集

九日 謁 誓 田 楊 妃 廟

万里和尙

謹白 真妃 若有靈 開 遺廟 戸 試 應 聽 生 合 託 鴛 鴦

菊 天寶 海 棠 何 故 零

以 洛 の 題 言 梅 華 無 尽 藏 に 重 陽 謁 誓 田 楊 妃 廟 官 昔 有 石 浮 圓 名 楊 妃 廟 云 々

熱田例祭

○大宮八劔宮内院外院供御調進

熱田例祭 當社の外宮傳昔ハ年内七十余宮小及び中世廢絶也。而も此の御祭内には大小の社附の神人云々。今も大宮と云ふ。持社例祭の外も多に記して活人の後。正元日。同日。五社の行ひ。今日係支の社より始て二日八劔宮三日松姑也。祭と云ふ式なり。社四日日割社五日南新宮云々。此の御祭は農具と持て板と傳へ。洗河と云ふ式終りて使おとる。授子供らふ。是と云ふ。罪古罪の扱なり。

踏歌の神事

正月十五日午の刻
 人各改所に於いて
 舞人十人冠に櫻枝
 依り花と挿以一倍徒
 十人山吹の作り花と
 加ふり見ハ笛と之を
 笏指子と採
 伎こしら法
 皇門のあまて
 倭馬樂と云ハ
 早て湯花門
 より舞入大儀
 少く外杖舞
 ありは舞海
 て倍徒一人計
 中子の冠と



香

看一鼓と共
 おづと祝詞
 解踏歌の頌
 とよむと世に
 けい武早て官
 福たまふ舞の舞
 けり又大福思
 大甚目か仕る
 樂もけり

萩野重道

舞人乃と
 けり
 小忌の袖
 けり
 けり



○大宮八劔宮外院供御

○大福田社踏歌調拜殿へ借籠十人あり十日

○大宮八劔宮供御七種

○牛玉水様夕方大福田の社にて馬場氏をもちて

○踏歌神事大宮より始り八劔宮大福田社にて終り三月三日の朝奉入瀬

○名残の公羽夜の刻大福田のお殿より官福大夫を奉ふ

○政所封水社庫政所におく葦葉のかけを俵に封し大宮正殿の下に置きて

○御的射の試海老門外にて射中筋部

○御的射神事海老門外に六尺余れ大的を射人八筋部二人中筋部二人祝部二人

○鈴宮的射本殿中道

○御的射人別定午の刻社家勅使殿におく来奉り射の射人と申園にあり

○大々神樂勅使と勅使殿の間に舞臺をすしけしを執り申筋部十人祝部二人双方

○祈年祭大宮大供御春日の寅の日四方の多麻に神を祀り卯の日粟供米を改

○八劔宮大供御調進勅使らりしを風うてあ夜朝とせし神供をりし勅使殿へ

○御田社田植祭勅使らりしを風うてあ夜朝とせし神供をりし勅使殿へ

○八劔宮内院供御草の儀

○舞樂當官におきて舞樂の起りハ上古より此事にて古路洋あ中世廢絶

○花の頭勅使殿に飾物の屋といと俵に小人形と並下に湯釜五器とす御代補代の

○白鳥社浮鳥社供御同日

○大宮内院供御同日

○御代補代頭人様年月の改人の官の事

○大宮八劔宮供御同日

○軍祭出仕八劔宮内院供御御補の頭人大官八劔宮高蔵官日割社源大夫社

○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

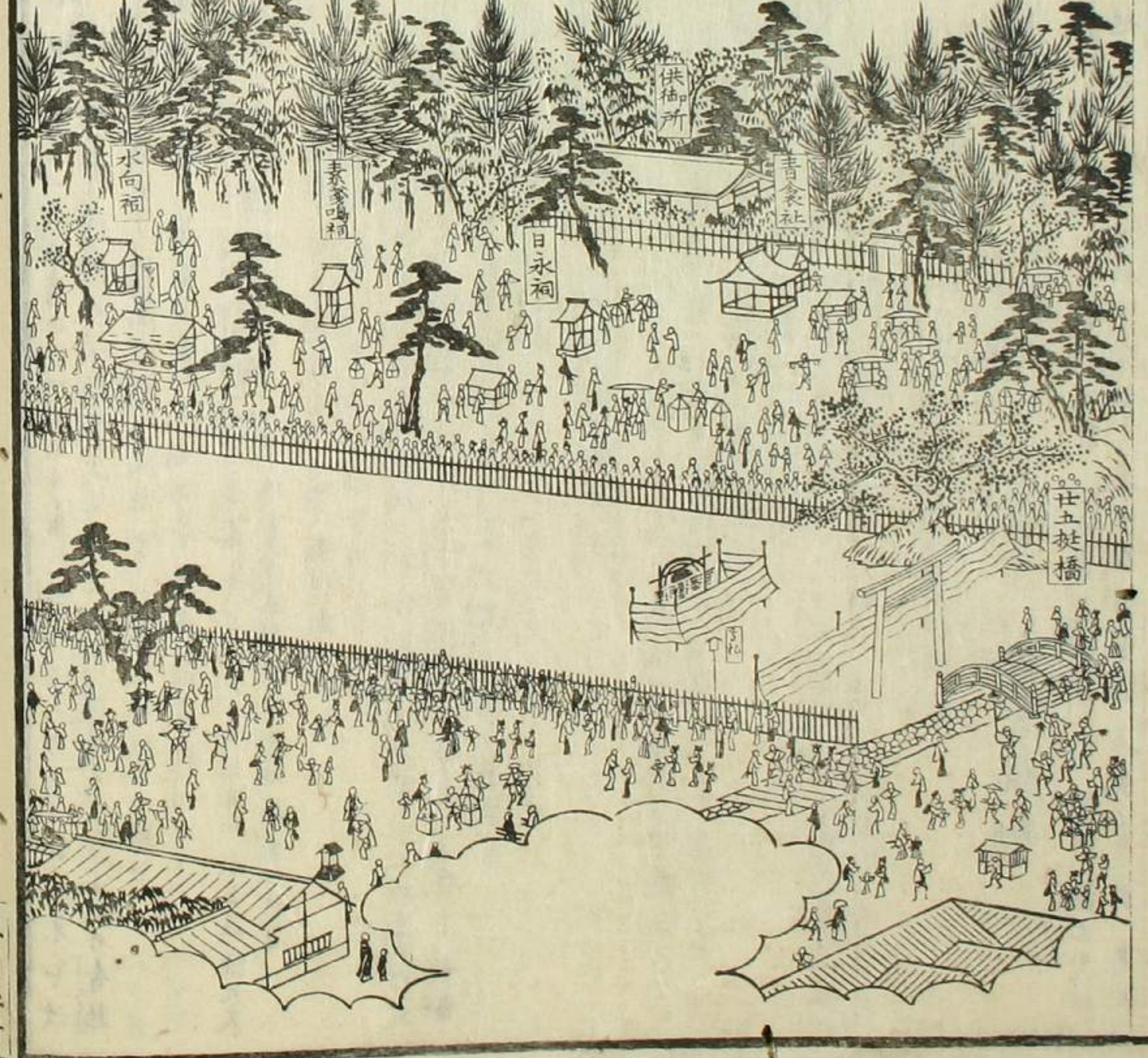
○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

○大宮八劔宮供御同日

御射の神事

隆尻に契田津宮ハ仲哀天
皇此考廟ナリテ他の皇あり
此御神也 朝廷の礼と
以てありきるたふ満ち射礼
等の式古よりまゝに
又武況に昔ハ内秉の御的
の中りとも宮此中りとも
合色一事のう都
昔来り宮使とも宮より
奏問の使とは州にて行
をよ例らり双方より矢の
中りと合さるる地と
矢走り印しとも夫の中
後の走りこの休事ハ七十余
の内にて持大祭あり



中尾ハ一代一ふりて
若 神意に依りて射
まづは射ハ社事と除り
是即座に出奔するも
あは古ハ腹ともきり
よーんひゆい今も射ま
せら家の赤飯も大
北一輪に大鳥も
まゝ谷にぬよも
なしく又障と
まゝひ射事ぬむ
時ハ是あの人
かの的と奪ひ引
破り持ゆりて
まゝにさる



香



新く坂田中とま
 巡る愛まーさ莫に奇
 初あり昔ハはを玄
 高蔵官くひひ
 今も中
 鷹の射を玄人
 早晩に彼官
 東官ナ最秘事
 あり



御射
 の式早
 射の人の
 うち四人と
 各ま竹うそ
 造るる替草を
 のめらるるよ
 番せ成子此
 若と男救十人
 くと早き奉げん
 色もらるるやあらう

其二



行掛すはれ社執りいしり 日本武尊東征此巻抄
をうらむり多式なり 大宮神事記に云く

○同夜 會影堂神事 改所におて寮人進と並む酒宴の式早て春神而と執りし事
三夜次に大宮八劍宮陸門のおり執りし儀におり奉りし事

○同夜 大宮神輿行幸 辰の刻内院供侍已の刻結皇門の閣上 非供と稱し北人注泊あり
未の刻 非喜と稱し海陸門をて御幸路と徑夫より注
皇門の閣上へ 非幸なり 其行掛社人注泊と稱して先にも次に注馬と幸し
衆人の道すし喜樂と奏し中廊の社事ハ非喜と稱し供奉儀注部ハ非喜
と稱し大宮司家ハ注泊と稱し相圖上より大宮人永宣吉頭戴の式あり夫
より改人の朝儀殿にゆり發附の事法標とゆづの故定りし事と改人改所に
非喜此還幸に供奉し注泊七社へ注泊儀付ハ又注泊より行掛ありし事此儀あり
并注泊の權輿と稱し人皇四十四代 天武天皇御紀ありし事と改人改所に
に還座ありし儀の侍たりし事と奏向す刻 朝して朱鳥元年本宮と稱し殿門諸未社
まへに注泊儀ありし事と信り 大宮と稱し 大非喜と善し稱し今より西門
小おと王城と守儀しりし事注泊ありし事

○同六日 馬の頭 同上に 神幸ありし事注泊ありし事

○同六日 兩頭人氷上詣 卯の刻より大祀に當り注泊と稱し多夜此儀につけし事大小の地灯を
其獲のしと稱しりし事今より西門 六月九日 南新宮大山祭 同上に 委し

○同六日 同宮御葭流 辰の刻より七十五日の百由所町より多夜此儀につけし事大小の地灯を
注馬と稱しりし事今より西門

○同六日 大福田社御田祭 ありし事注泊ありし事

○同六日 大宮大掃除 辰の刻より 宮中七巻掃除せ

○同六日 八劍宮内院供御 同日 大宮内院供御神寶虫拂 早朝 供御

○同六日 八劍宮大掃除 同日 八劍宮内院供御 早朝 供御

○同六日 大宮神輿行幸 當日早朝内院供御調進夫より 神輿大福田へ行幸りし事 兼平年中
平將門没伐の事此儀よりしりし事注泊ありし事行掛儀注部ハ五月の
神幸に同し又里俗は多とて放生會とてハお門没伐の事多夜軍兵と評し人人民此
命とて石清水にて放生會行りし事注泊ありし事注泊ありし事又放生會も行りし事

○同六日 神寶虫干 毎年拜見人奉りし事注泊ありし事注泊ありし事

○同六日 八劍宮内院供御 同日 大宮内院供御 新嘗祭 其式二月此祈年祭に
大月也異なりハ辰

○同六日 御煤拂 大宮別宮未社御煤拂 供御 酒進
前日 前波手森より殺り香とおとす

○同六日 土居の瀧より御盥と献儀 饗豆 饗田地名古谷ハまきまきも注泊す
る者多く注泊に寒の入寒となりし事のおき此三夜は注泊ありし事注泊ありし事
新形のゆり挑灯と稱しりし事注泊ありし事注泊ありし事注泊ありし事注泊ありし事
に注泊ありし事注泊ありし事注泊ありし事注泊ありし事注泊ありし事

○同六日 神寶 古太政官符 兼和十四年丁卯三月七日 同年閏三月十四日 嘉祥三年庚午
二月九日 同年三月十日 同月廿二日 昌泰三年庚申四月廿一日
等此六通今存在す又朱鳥元年丙戌六月八月以下數十帳ありし事注泊ありし事
中世散止し今其宮のありし事注泊ありし事注泊ありし事注泊ありし事注泊ありし事

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

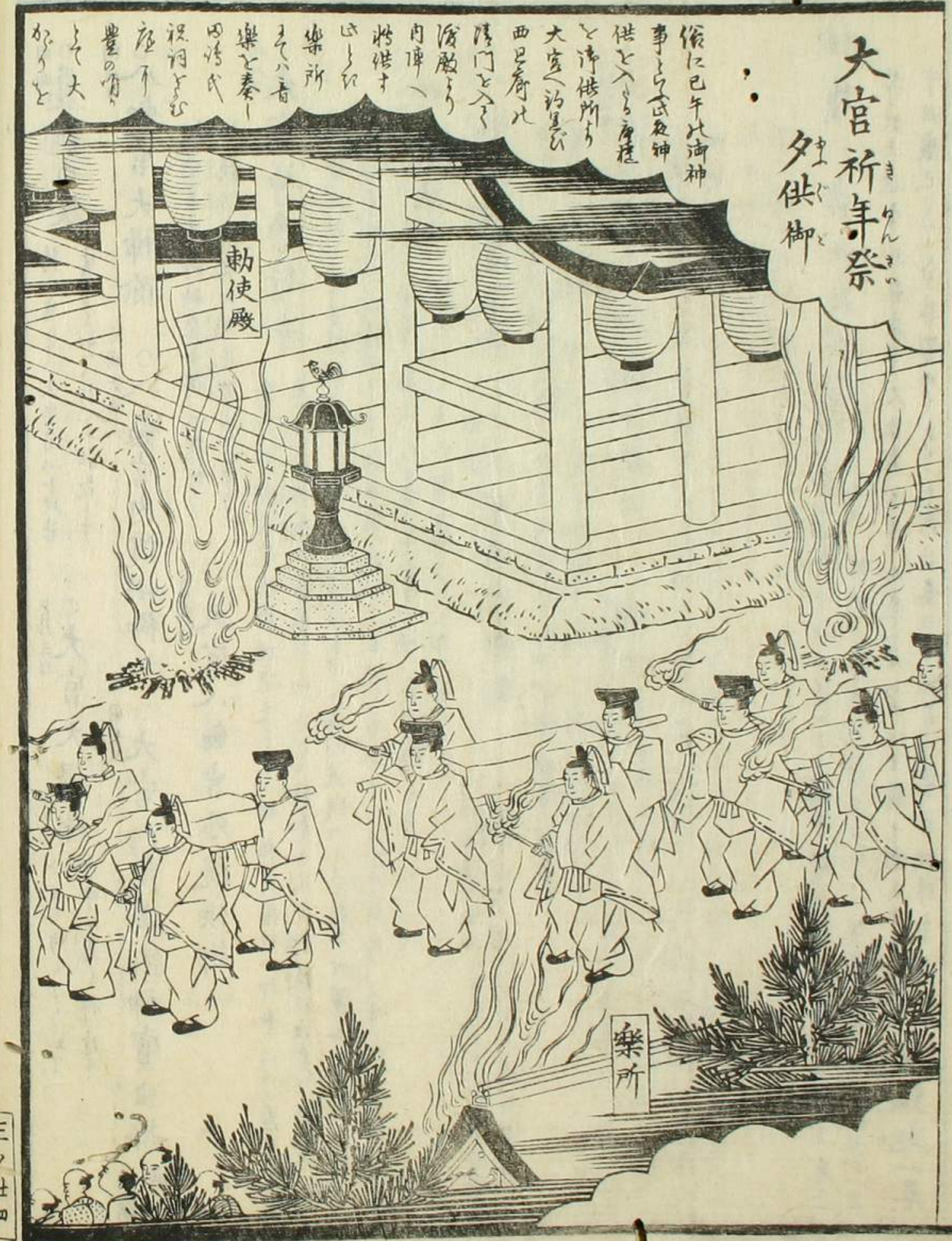
○同六日 古縁起一卷

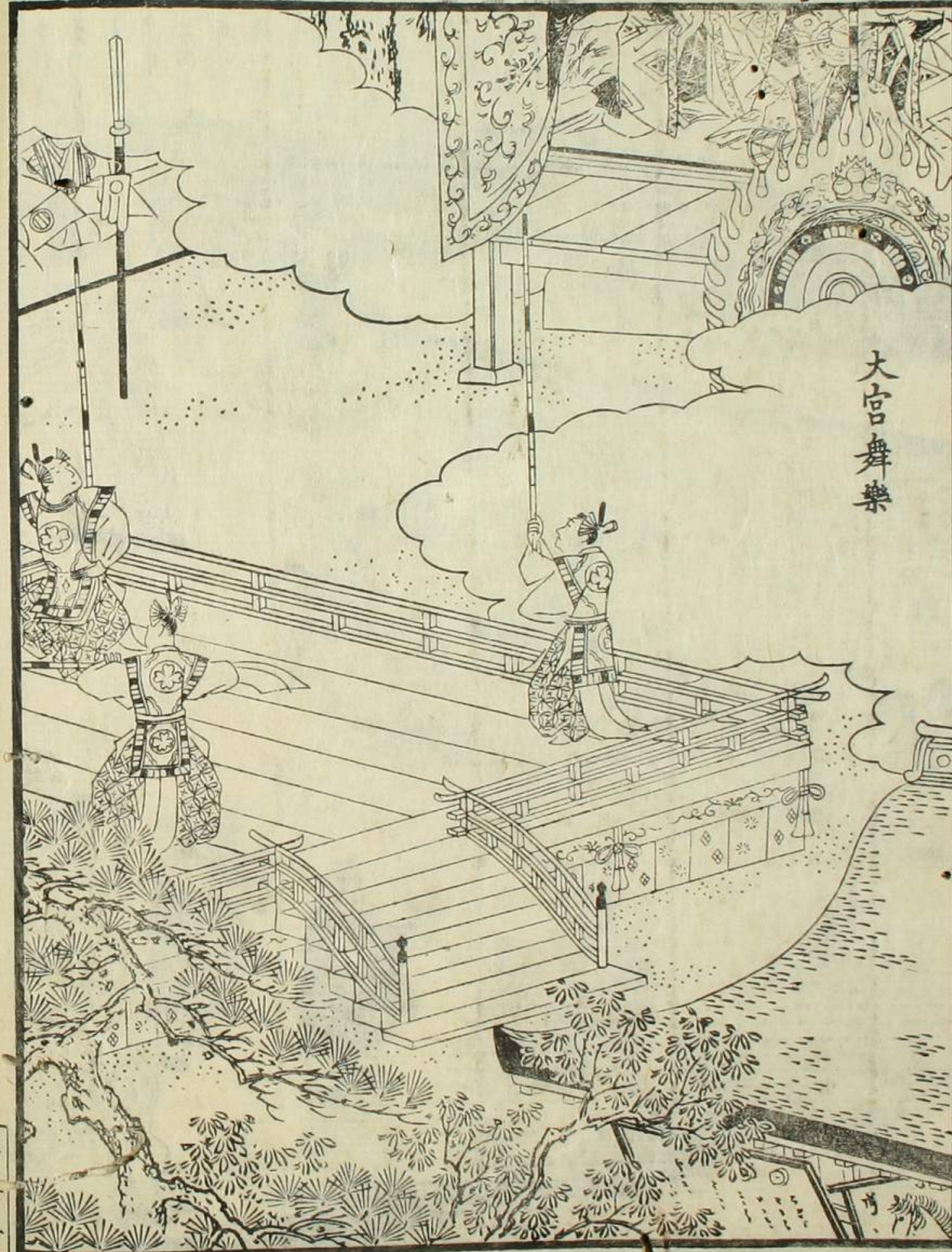
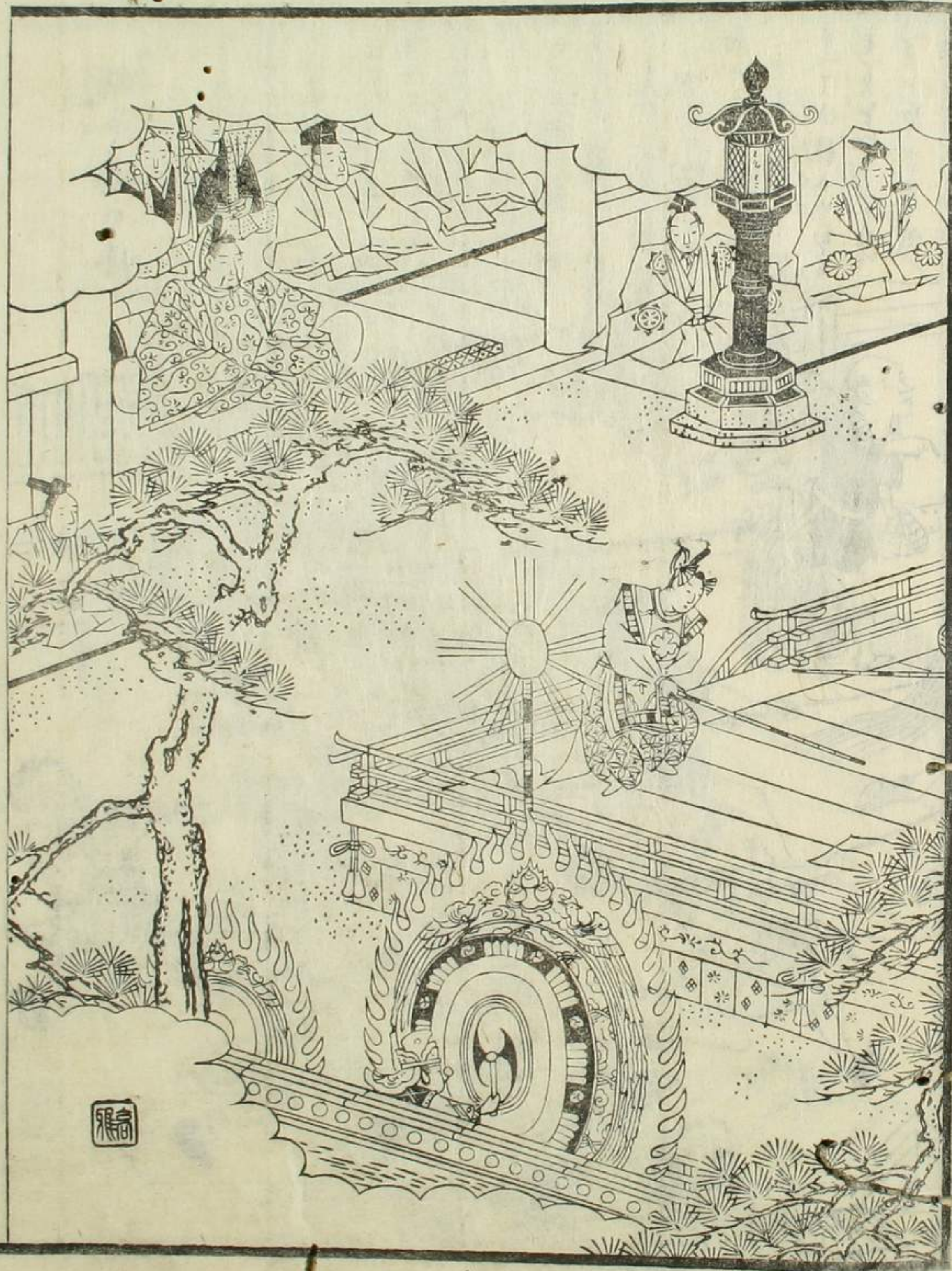
○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷

○同六日 古縁起一卷





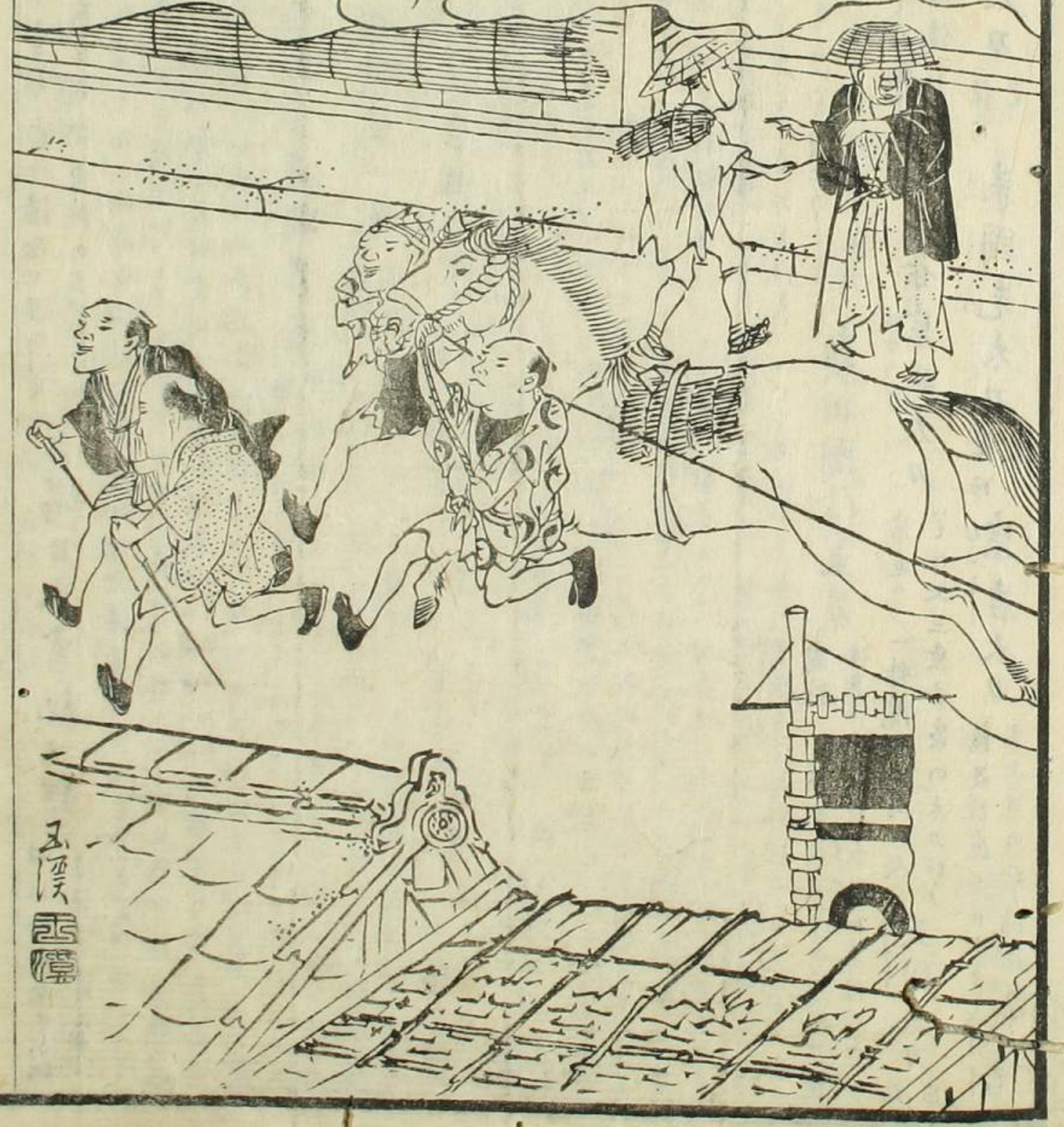
大宮舞樂

端午馬の塔

所々及びをとりも是と
 献ずる事多し其内
 左の馬ハ鞍馬の馬ハ
 右の馬ハ馬の次に本馬
 馬の二品有り本馬と
 三行別表を以て其
 所々の言おと先に至次
 に子供救多棒とお次に
 若き者大勢長刀とあり
 ぎさ路り馬と奉り馬
 馬の馬の傍りとあり
 鞍のへに持の傍りあり
 と是見と標具と鞍
 までては競馬のむま
 若良とついでて競
 の目と驚きせり俄



馬と云ふハ裸馬にけり
 薦と巻細杖とつ
 けり其後縁と
 いくなり者さまの
 流行りまの風俗
 をそめて頗馬の
 又見皆桶投りれ
 さ風あふふと色ど
 ままの競馬此條
 韻も見く府下
 大波のこの條ハ
 畧と教とてにせり



玉屋

貞觀十六年守部宿祢清指撰りて
寛平二年左京村攝重修の古写あり
懐紙和歌と書し正三位為重少孫元可藏阿弥佛出教十人
近年以和歌と号し一版を刻して
副文ありて
宗所望四條金蓮寺四代人御奉加之圓福寺三代嚴阿所申沙汰也永和三年丁巳霜
月四日
奉納古連歌卷物
應永三十年十一月十三日百韻延徳四年卯月十九
日百韻天文十六年十二月廿三日百韻正保二年八月
十一日百韻
和歌懐紙一卷
室前同詠社頭松俵歌渡人八左中将藤原為滿以下十九人
詠あり
其内此分
法華經一部
私法大少
同一部
人のを
經一卷
小野道凡の
ありにちかせり
と知らずその介和漢の古写古印刻此書難
佛經其甚多く百の頁ありて
巻ホに源光光吉光の太刀と云々殊の状あり
怪と斬りて
彼大官目の聲あり
由緒によりて大官同家に付りて
天文七年九月織田家美濃此
秘及合戦の時千秋紀伊もひ右刀を佩て稲葉山にて討死せり
後方藤山持統の御手
に後りてのち其御手を長秀の御孫にありて景清と云々藤山も行目首持して
も一月ありて
誓田に奉りて古書に
信
誓田に奉りて古書に
誓田に奉りて古書に
誓田に奉りて古書に

古寫日本書紀一部
世に誓田中日本紀
と稱す卷裏に

春敲門額
小野道
切丸太刀
光劍

誓田國信太刀
國信ハ
後光厳天皇の御時此
治りて大和比長谷部の信人あり

宗吉太刀
治及び應永廿六年六月
十七日の奉納あり

友成太刀
治及び天正十四年七
月七日の奉納あり

廣光太刀
天正八年正月七日
の奉納あり

安次太刀
治及び
重道

備前介成太刀
治及び
國友太刀

備州吉次太刀二振
治及び
備前介成太刀

備前介成太刀
治及び
備前介成太刀

備前介成太刀
治及び
備前介成太刀

備前介成太刀
治及び
備前介成太刀

備前介成太刀
治及び
備前介成太刀

備前介成太刀
治及び
備前介成太刀

備前介成太刀
治及び
備前介成太刀

備前介成太刀
治及び
備前介成太刀

備前介成太刀
治及び
備前介成太刀

神領

河美濃の三國のうちに神領の地あり
天武天皇此朱鳥元年六月八日一萬八千町寄附りて正應年中は尾張參
の神事に
日本後紀に天長十年六月壬午
詔奉授聖尾張從三位熱田大神正三位并納封十五戸
祭式中凡鴨御祖別雷誓田の三社の神祇穀ハ社用之外用ありと云々此

春敲門古額

小野道風筆

二尺八寸五分



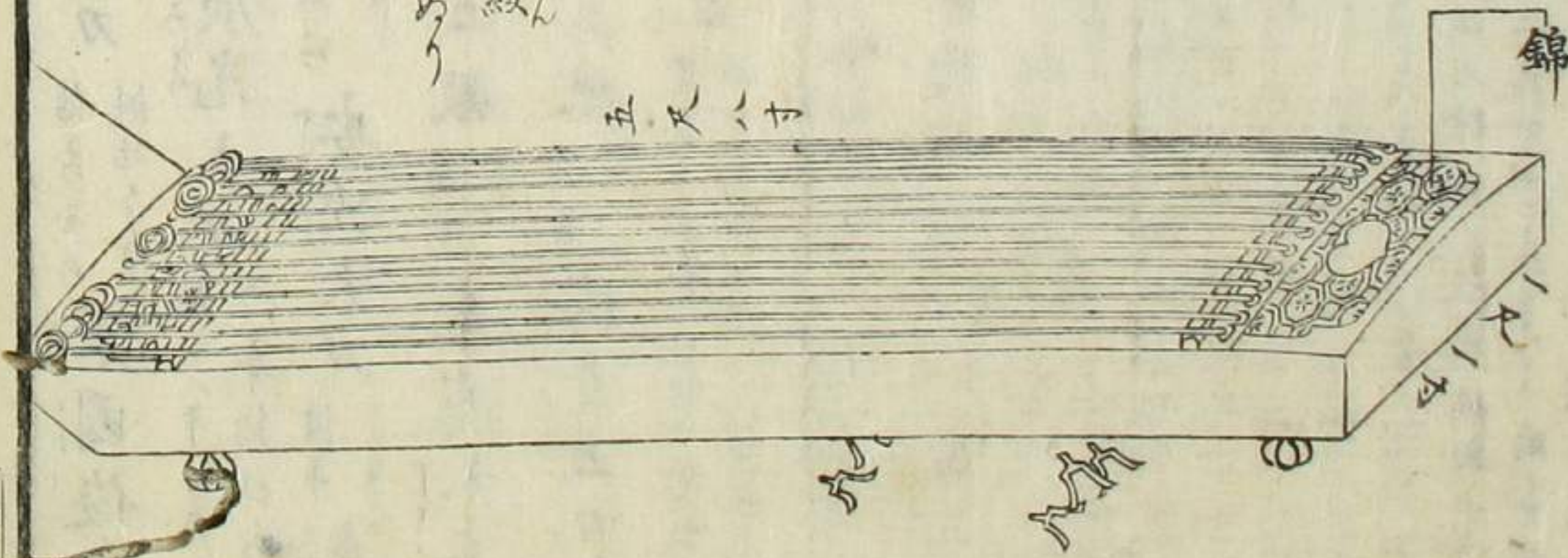
舞樂古面

陵王



鷄尾琴

十三絃
惣朱ゆり



錦

納曾利



還城樂



崑崙八仙



二の舞



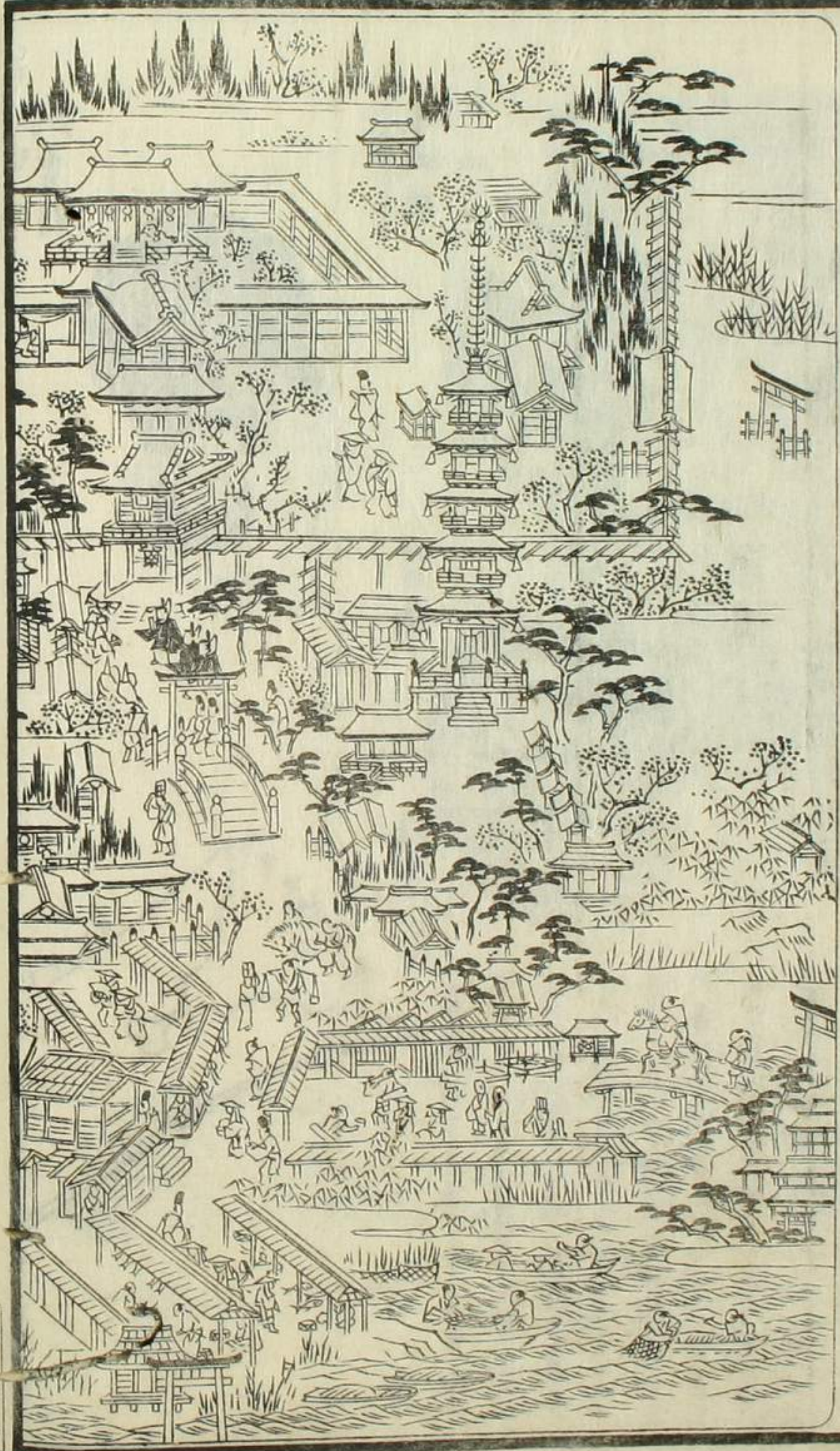
同裏



裏書いとも朱うりてま
せりにからげ文字は
多々れも年号は悉く治承の文字見
いとは天保の今日に成りて凡六百六十
余年あり古物あり内陵王の面ハ
弘安元年修復しはと巴尾又々々に
至て五百六十余年あり余の面ハ
治承年の修復なりハ其製作の
時とともに見らるる年と見らるる

雅縮園

熱田社享祿年中之古圖



三雅館藏



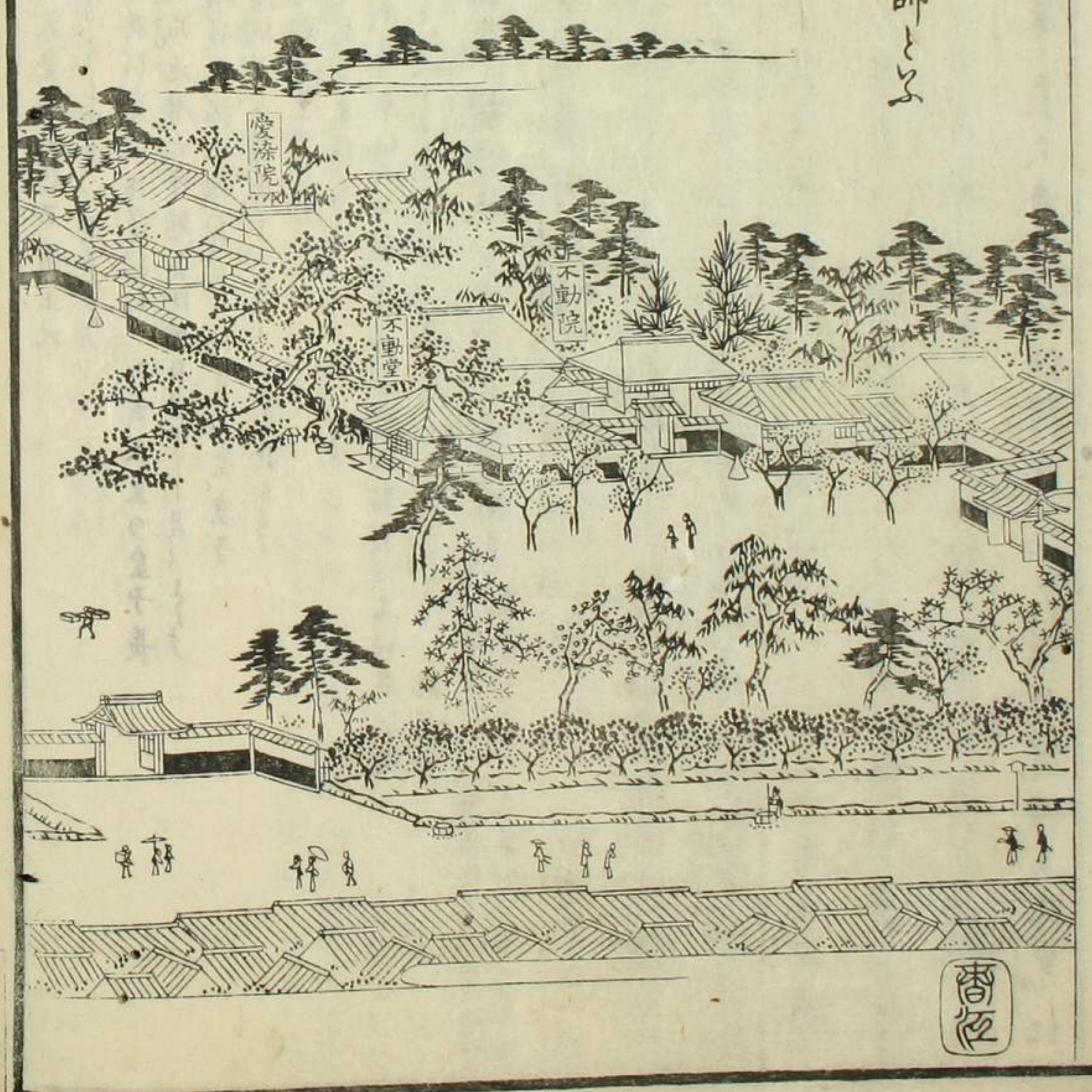
右の圖真書に云 享祿二年巳酉二月吉日生國越州蒲原郡住

大勸進順海筆者 加野和泉祐筆資信印

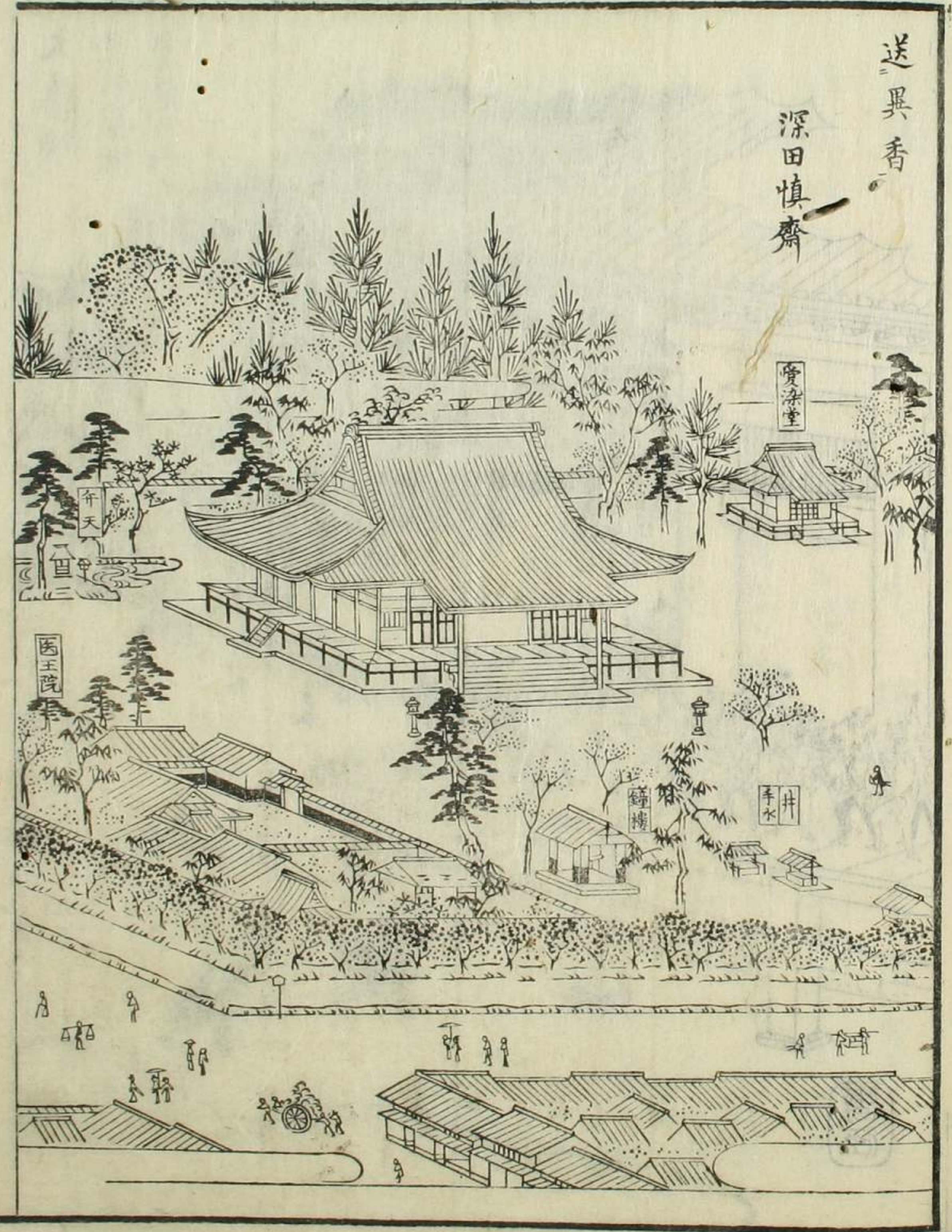
按しに加野和泉ハ武藩の時清次に任じ 画者あり

神宮寺
俗に大薬師といふ

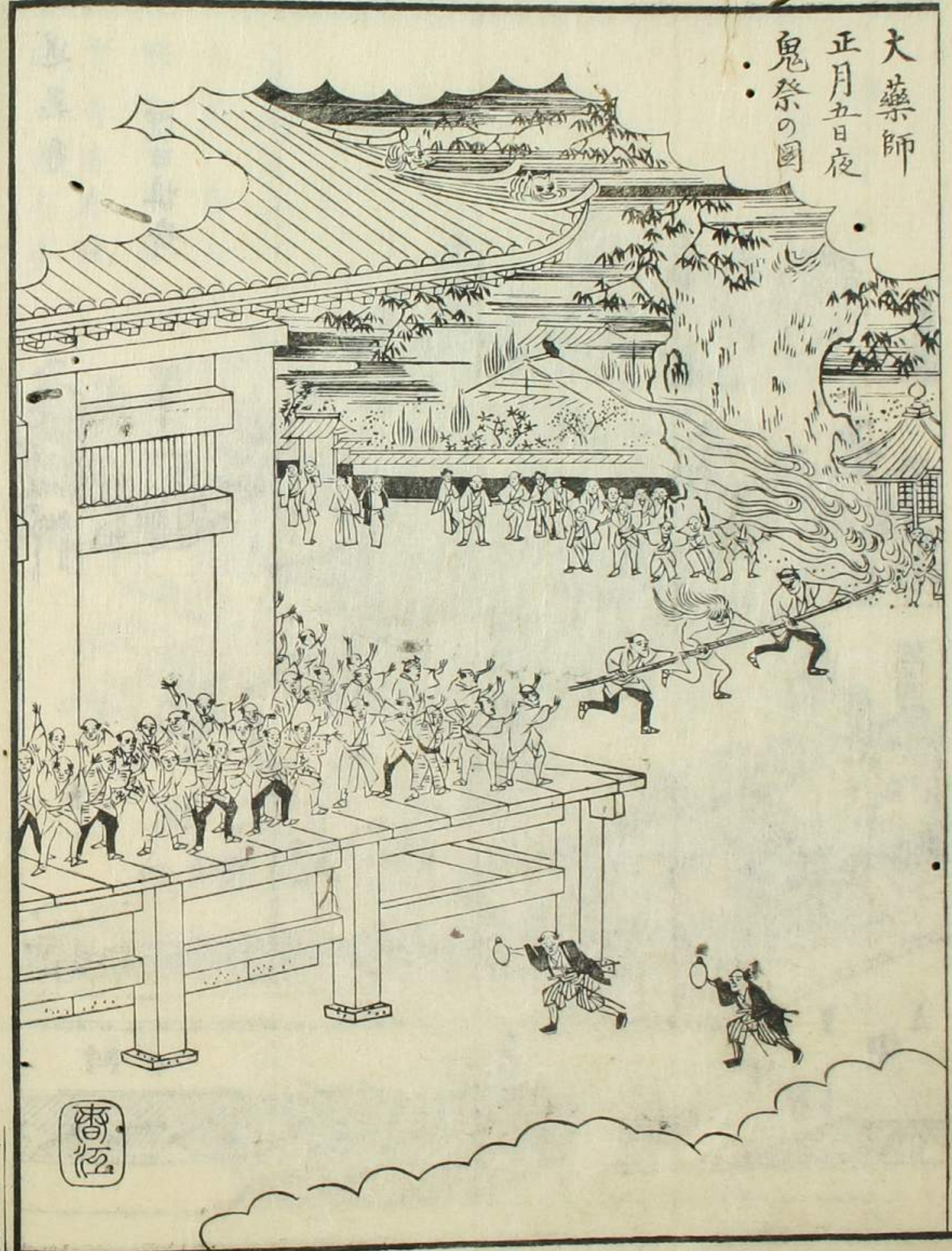
高閣左邊双
小堂一醫王
佛二明王茲
中自有春風
別不送花香



送異香
深田慎齋



大薬師
正月五日夜
鬼祭の圖



香印

法縁ありより隆光吹奏して 將軍家にまゝ 神宮寺再建此

佛免許と得るに 國君も詔答 弘仁十五年堂宇と修造し

不動院愛染院とあり境内へ移し 隆光院と再建して恒持と

まらるる舊觀に復せり 山号は龜頭山ありとを此今

ありと 兼和十四年三月七日の官符に置神宮寺別當 本尊 兼和の座像

蔭孫正八位下御 船宿祓木津山とありに據るなり 兼和の座像

高ヤ二丈一尺八寸此大像あり 腹内に弘法大師の坐像あり又十二

神將四天王等の像と安置し 砂石集に文永の改葬田の社名にありり 兼和の座像

十一月十五日俄に火目首は色はるる 兼和の座像あり 兼和の座像

の年三月十五日の夜に傍一人來りて目を叩きよとて 兼和の座像あり

同くあり 不動堂 本堂の例にありは堂とて八齋宮に境内にあり 不動明王

志依せり 不動堂 本堂の例にありは堂とて八齋宮に境内にあり 不動明王

元禄年中再興の時 愛染堂 不動院の北にあり 愛染院の作

の院と稱せりと不動堂と同日に 鐘樓 延徳元年に造り 古鐘は今名古座の

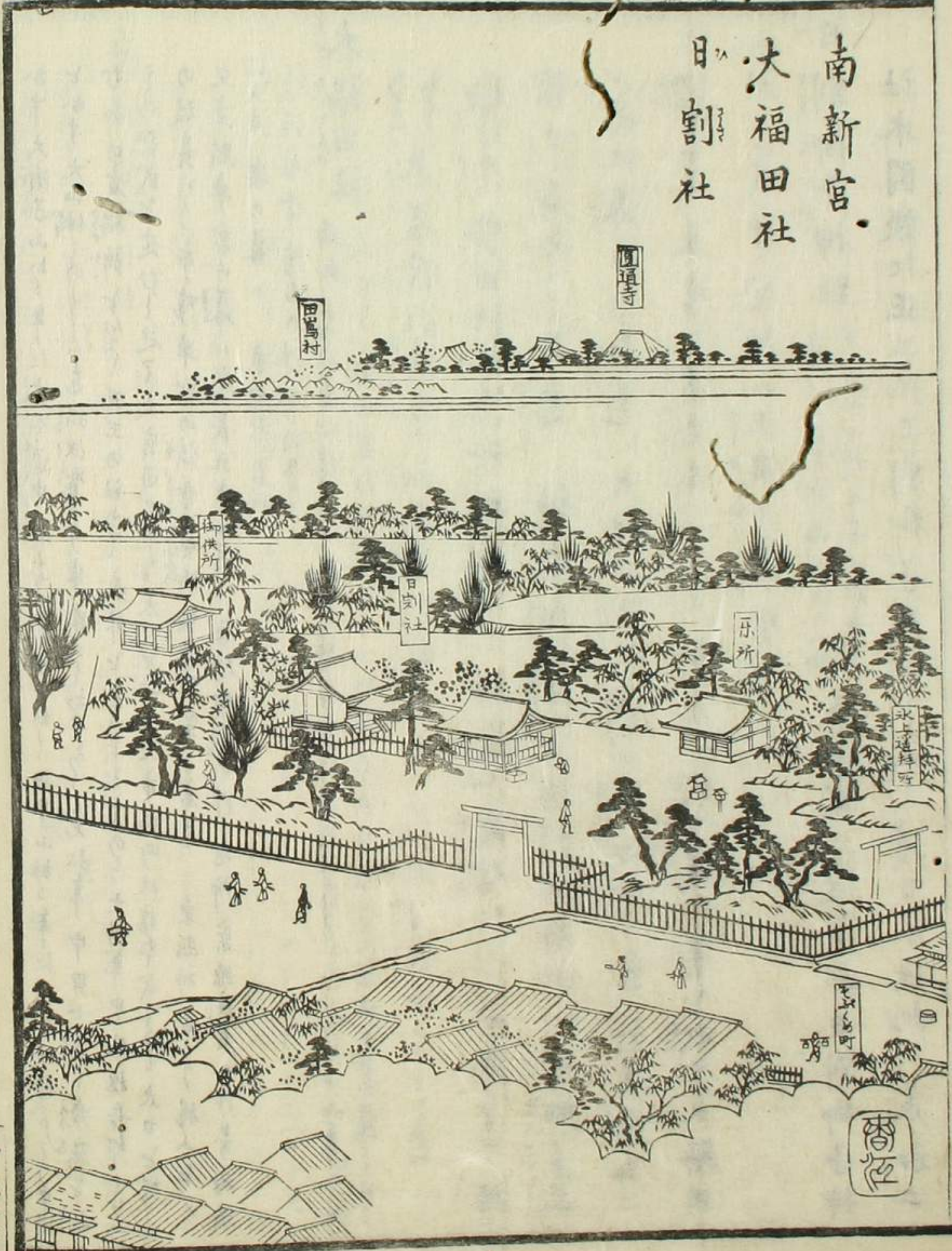
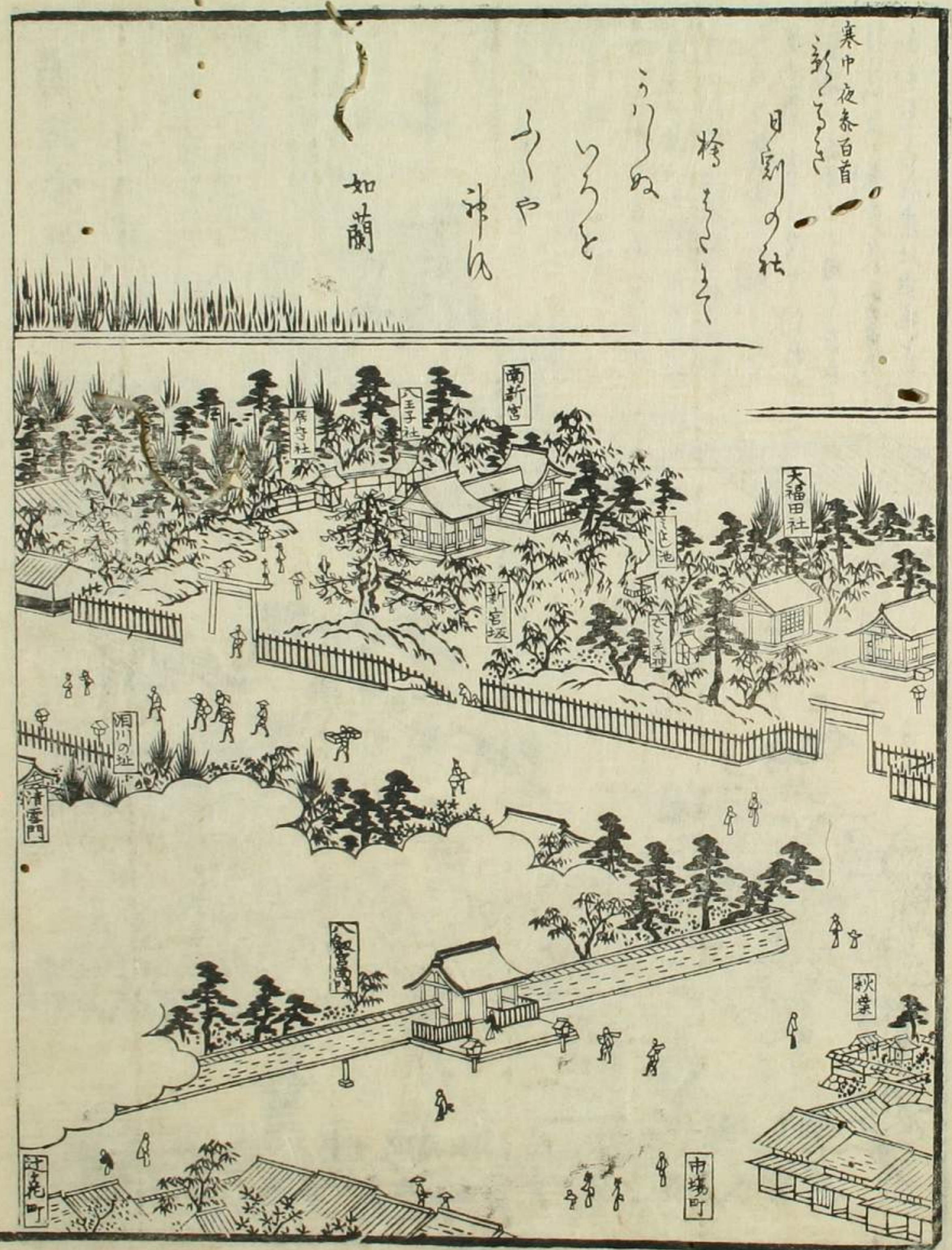
ありとて愛染院とあり 鐘樓 延徳元年に造り 古鐘は今名古座の

月十廿日保科侯の佐々木陸奥會津の山中の樵夫入倫絶る 深山とて年長七十八斗

ありとて保科侯の佐々木陸奥會津の山中の樵夫入倫絶る 深山とて年長七十八斗

ありとて保科侯の佐々木陸奥會津の山中の樵夫入倫絶る 深山とて年長七十八斗

ありとて保科侯の佐々木陸奥會津の山中の樵夫入倫絶る 深山とて年長七十八斗



年十二月壬午尾張國日割御子神孫若御子神高座結御子神
 惣三前奉預名神並熱田大神御兒神也ト凡ク神名帳頭注に
 尾張國年魚市郡日割御子日本武五男武鼓王也ト凡ク世
已 境内南此方に氷上神社遷拜所の鳥居あり本社ハ知多郡大宮村にあり

尾張名所圖會卷之三 終

熱田之部
 深川忠豊全撰

三十九

